

≡ 八尺様 台本

● 第1章

母「それじゃあ、お母さん、行ってくるからね。

お留守番よろしくね。

お母さんとの約束、覚えてる？

戸締まりはきちんとすること。

見ず知らずの人を、勝手にお家にあげないこと。

火や刃物を使う時は、充分気をつけること。

あと、困ったことがあったらお隣さんに相談ね。

でも、お隣さんもうろいろ忙しいそうだから、

あんまりご迷惑はかけないこと。

自分でできることは、自分でやるのよ？ いい？

大丈夫？ うん、それならよし。

一週間ぐらいで帰ってくると思うから、それまでがんばってね。

お土産買ってくるからね。

じゃあね。ふふふ。」

重「ごめんくださいーい？」

代「どなたかいらっしゃいますかあ？」

重「あら？ ボク…。ふふふ、こんにちは。

はじめまして。」

代「お母さんやお父さんはいらっしゃるかしら。

…え？ いないの？

あらあら…。ということは、今、ボク一人でお留守番？」

重「まあ、そうなの…。ふふ、えらいわね。

お仕事かしら…。

うん…。

私たち、一昨日ここに引っ越してきたから、

近所の人たちにご挨拶に回ってるのだけど…。」

代「帰ってくるのはいつ頃になるの？

…一週間？ また長いのねえ。

それじゃあその間、ボク一人なんだ？」

重「そう…。なんだかさみしそうね。

ふふ、よかったら、お姉さんたちが毎日、

様子を見に来てあげましょうか。

ボク一人で一週間も過ごすのは大変でしょう？」

代「え？ そんなことない？

ふふ、そうね。ごめんなさい。

ボクはもう、立派な男の子だもんねえ。

じゃあ、様子を見に来るんじゃないやあなくて、

遊びに来るってことでいい？

「近所さん同士、仲良くしましょ？」

重「私の名前は八重。こっちは…。」

代「八代って言うの。よろしくね、ボク。

ふふふふ…。」

重「それじゃあ、はい。これ、ご挨拶の菓子折り。

中にお菓子が入ってるの。

…そうだ。せっかくだから、いっしょに食べましょ？」

代「あら、いいわねえ。

お近づきの印に、いっしょにお茶しちやいましょう。

いいでしょ？

お姉さん、ボクのこと、もっと知りたいなあ…。」

重「いいの？ ふふふ、ありがとう。

それじゃあ、お邪魔します。」

代「失礼します〜。ふふふ…。」

重「つと…。気をつけないと、天井に頭、ぶつけちゃうわね…♪」

代「はい？

ふふ、そうね。私たち、大きいでしょう？

大きなお姉さんは嫌い？

ふふ、そんなことないんだ。

ええ、ありがとう。そう言ってくれて、嬉しいわ。」

重「さて、お茶を入れましょうか。

ボク、台所まで案内してくれる？」

代「お姉さんたちが、おいしいお茶、入れてあげるからね。

いっしょにお菓子を食べながら、お話ししましょうね。

ふふふふふ…♪」

● 第2章

重「どうだった？

お姉さんたちが持ってきたお菓子…美味しかった？」

代「ふふ、よかった。

お母さんたちにも食べてほしかったけど…。

まあ、仕方ないわね。

一週間もお出かけて言うんじゃあ…。」

重「でも、おかげでこうしてボクととっても仲良くなれたんだから、

私は嬉しいわ。

ほら、ボク。こっち…いらっしやい」

代「もっとお姉さんたちと、とっても楽しいお話し、しましょ？」

重「ふふふ…」

代「ふふふふふ…」

重「どうしたの？ ボク…。

お顔、真っ赤だけど…？」

代「お熱でもあるのかしら？

うゝん…違うわねえ。

じゃあ、どうしてそんなにお顔が真っ赤なのかしら？」

重「もしかして、ボク…。

お姉さんたちといっしょにいて…♡」

代「お胸がドキドキ…♡

しちゃってるのかしら…♡」

重「お姉さんたちの、甘い香りに包まれて…♡」

代「お姉さんたちの甘い声、

いっぱい聞いてえ…♡」

重「おちんちん…♡

むずむずさせちゃってるの…？

ふふふ…♡」

代「おちんちん…♡

むずむずさせちゃってるの…？

ふふふ…♡」

重「あは…♡

やっぱりそうなのね…♡

おちんちん、むずむずうって…♡

くすぐたくなっちゃってるんだ…♡」

代「お姉さんたちに、こうやって、むぎゅう…うって♡

左右から挟まれて、おちんちん勃起♡

しちゃってるのねえ…♡

んふふ…♡」

重「ええ、そうよ♡

勃起♡ おちんちん、硬あくなること…♡

知らない？」

代「あは♡ それじゃあボク…♡

今、初めておちんちん、勃起させちゃったんだあ…♡」

重「なら、ご近所さんとして、ボクに…♡

おちんちんの本当の使い方…♡

教えてあげましょうか…♡」

代「おちんちはね♡

おしっこをするためにあるんじゃないの？

本当はもっと、素敵な使い方があるの…♡」

重「ボクみたいな男の子なら、みいんな好きな使い方…♡」

代「むずむずして、勃起しちゃったおちんちん…♡

こうやってえ…♡

お手々で、さわさわるの…♡

ふふふ…♡」

重「お母さんから、おちんちん、

いじっちゃいけませんって言われてない？

確かに人前でそういうことをするのはいけないの…♡

でもね…♡」

代「ボクにとってのお姉さんたちみたいなあ…♡

見てるだけでドキドキしちゃうような…♡

いっしょにいるだけで楽しいって思っちゃうみたいなあ…♡

だあい好きな女の人の前なら…♡

おちんちん、いじいじしちゃっても大丈夫なの…♡」

重「こうやって、おちんちん、なあで、なあで…♡」

代「勃起おちんちん、いいこ、いいこおって…♡」

重「ふふふ…♡」

おちんちん、硬くなってきた…♡

どんだん勃起してきちゃったわねえ…♡」

代「なら、今度は直接…♡」

おちんちん、触ってあげましょうか…♡」

重「ほら、おズボン、脱ぎ脱ぎしましょうねえ…♡

はあい…♡ おパンツも脱いでえ…♡

おちんちん、こんにちはあ…♡」

代「あは♡ かわいいおちんちん…♡

びんびんになって、ぴくぴく震えて…♡

一生懸命勃起して…♡」

重「そんなかわいいおちんちんを、こうやってえ…♡」

代「お姉さんたちがにぎにぎして…♡

しこしこ…♡ 手コキしてあげるねえ…♡」

重「ほぅら…♡

っいっいっ、っいっい…♡

おちんちんいいい、いいこお…♡」

代「おちんちんどう？ 気持ちいい？

おちんちはね、こうやっていっぱい、

しこしこしこししてもらうとね、

喜ぶようになってるんだよ…♡」

重「おちんちんの勃起も知らなかったんなら、

オナニーも知らなかったよね…♡

自分でしこしこしても、おちんちん、

すっごく気持ちいいんだよ…♡

覚えておこうねえ…♡」

代「お姉さんたちがいない時は♡

自分でおちんちん握って、しこしこ、こすこす…♡

自分でおちんちん気持ちよくするってこと、

覚えておこうねえ…♡」

重「まあ、でも…♡

しばらくは、そんなことする必要ないかもね…♡

だって、今日からはボクのおちんちん…♡」

重「精通前のおちんちん、いっぱい甘やかしてもらってえ…♡」

代「気持ちいいお射精どっぴゅん♡

覚えちゃおうねえ…♡」

重「はーあ…♡」

代「はーあ…♡」

重「んふふ♡

どう？ お姉さんたちの、耳舐め…♡

おちんちん、もっと気持ちよくなっちゃうでしょ…♡」

代「おちんちんもお耳も、

いっぱい気持ちよくしてあげるからね…♡

気持ちよおくちんちんしごかれて、

最高のぴゅっぴゅ♡

覚えちゃおうねえ…♡」

重「うん♡ そうだよ、ぴゅっぴゅ、だよ…♡

おちんちんから、びゅー…♡って、

精液、出しちゃうの…♡」

代「おちんちんには、タマタマが付いてるでしょ？

このまるまるでかわいいタマタマ…♡

ここに、精液が詰まってるの…♡」

重「おちんちんをこのまましこしこしてるとね♡

おちんちんからびゅっぴゅ♡

どっぴゅん♡ って…♡

精液が出てきちゃうの…♡」

代「それが一番、おちんちんが気持ちよくなれる瞬間なの…♡

男の子が一番好きな、お射精びゅっぴゅ…♡

ボクのお父さんも大好きな、

真っ白おしっこ、びゅっぴゅっぴゅ…♡」

重「お友達より先に覚えちゃおうね…♡

きれいなお姉さんに、お射精させてもらったよって…♡

みんなに自慢しちゃおうねえ…♡」

代「みんなは信じてくれないかもしれないけど…♡

おちんちんはしっかり覚えてるからね…♡

思い出しっかり、残しちゃおうねえ…♡」

重「ほら♡ おちんちんからぬるぬるのお汁♡

出てきちゃったあ…♡」

代「これ、わかる？」

我慢汁…♡ カウパーだよお…♡

おちんちんが気持ちよくなると出てきちゃうの…♡」

重「とろとろお汁いっぱい出すの気持ちいいねえ…♡

でも、おちんちはまだまだ、

もおっと気持ちよくなるからね…♡」

代「カウパーとぷとぷより気持ちいいこと…♡

すぐにわかるからねえ…♡

期待していいからねえ…♡」

重「ふふ…♡

かわいい声…♡

喘ぎ声、出ちゃってる…♡」

代「おちんちん気持ちよくって、我慢できないんだ？

うん♡ いいよお…♡

いっぱいあんあん、いい声、出しちゃお…♡」

重「おちんちん気持ちいいと、声、出ちゃうものだから…♡」

代「だから我慢しないで、いっぱい、あんあん♡

しちゃってねえ…♡」

重「ふふ、そうそう♡

あんあん♡ あんあん♡

おちんちん気持ちいいねえ…♡」

代「タマタマ熱くなってきちゃったね…♡

精通お漏らし、したくなってきちゃったねえ…♡」

重「出ちゃう？ おしっこ出ちゃいそう？

ふふ、それは違うの♡

おしっこじゃないのよ♡

精子、精液♡ ザーメン…♡

おちんちんミルク…♡

出てきちゃいそうなの…♡」

代「いいよお、いいよお…♡♡

我慢しないで、どっぴゅんしようねえ…♡♡

きれいなお姉さんに挟まれて、

お耳ねっとり舐めしゃぶられて♡

幸せ精通お漏らししちゃうねえ…♡♡」

重「おちんちんからあつつあつのおちんちん汁♡

出しちゃうねえ…♡」

代「タマタマびゅーびゅー♡

大人の階段、昇っちゃおうねえ…♡」

重「はあい♡ はあい♡

どうぞ、どうぞ♡

おちんちんどうぞお…♡」

代「おちんちんぴゅっぴゅしちやぶねえ…♡

お姉さんたちのお手々の中で…♡

びゅっぴゅんしようねえ…♡」

重「はあい…♡ おちんちん、どうぞお…♡」

代「はあい…♡ おちんちん、どうぞお…♡」

重「びゅー…♡ びゅー…♡

びゅっびゅっびゅー…♡」

代「どっぴゅっ、どっぴゅっ…♡

びゅるるるっ…♡」

重「っぴゅっっ♡

精通ザーメン、たっぷり出てる…♡」

代「おちんちん気持ちいいね♡

初めてのお射精気持ちいいねえ…♡」

重「射精の快感、脳みそに刻みつけようねえ…♡

これ覚えちゃったら、男の子はもう、

引き返せないからねえ…♡」

代「毎日毎日ぴゅっぴゅしないと我慢できない男の子に、

なっちょおうねえ…♡」

重「ふふふ、ふふふ…♡

おちんちんしこしこ、おちんちんしこしこ…♡」

代「おちんちんイッたばかりなのに、

しこしこ続けられるの、気持ちいいね♡」

重「おちんちんくすぐりたい？

出したばかりのおちんちん、

よしよしされるの、辛いなあ…♡」

代「辛いよりも、気持ちいい方が強いよね…♡

精通ザーメン、まだまだ出し足りないもんねえ…♡」

重「ほぅら…♡

おちんちんもっと、気持ちよくなっちゃおうねえ…♡」

代「ボクもおっぱい大好きだもんねえ♡

おっぱい嫌いな男の子なんていないもんね…♡

おっきいおっぱいに包まれながら♡

おちんちんたくさん、感じちゃおうねえ…♡」

重「ふふふ、ふふふ…♡

必死にお姉さんたちのおっぱい、掴んでる…♡

かわいいボク…♡」

代「おっぱい揉み揉み気持ちいいね…♡

しこしこされてるおちんちん♡

もっと気持ちよくなっちゃうねえ…♡」

重「お姉さんたちの身体、たくさん味わっていいからね…♡

掴んで、握って、しがみついて…♡

全身でお姉さんたちの身体♡

味わっちゃってる…♡」

代「お友達の子たちがみいんな知らない、

お姉さんのえっちな身体…♡

一足先に楽しんじゃおうねえ…♡」

重「ボクだけだよ…♡

お姉さんにおちんちんしこしこしてもらってるのはあ…♡

かわいいかわいいボクだあけ…♡」

代「お姉さんたちと仲良しになった、

ボクだけだからねえ…♡

お姉さんたちのこと、独り占めしちゃうねえ…♡」

重「あっはあ…♡

また出ちゃう？ おちんちん出ちゃうんだ♡

おちんちんイクんだあ…♡」

代「いいよお♡ いいよお…♡

イクイクしようねえ…♡

おちんちんイクイクうって…♡」

重「イクってわかる？

おちんちん気持ちよくなって♡

ぴゅっぴゅすることだよ♡」

代「さっきみたいにびゅーってするのを、

おちんちんイクって言うの♡

だから、またイツちゃおうね♡

おちんちんイこ♡ イクイクしちゃお…♡」

重「おちんちんイク♡って♡

おちんちんイクイク♡って、いっぱい言うの♡」

代「声に出して、イクイクって言うんだよ♡

ほら、イクイク、イクイク♡」

重「そうそう♡

おちんちんイクイク♡

おちんちんイク♡」

代「おちんちんイクって感覚♡

頭と身体で覚えちゃおうねえ…♡」

重「はあい♡ はあい♡

いいよお、いいよお…♡♡

おちんちんイッていいよお…♡」

代「どうぞ、どうぞお…♡♡

おちんちんイクイク♡

おちんちん出る出る♡

おちんちんぴゅっぴゅ…♡♡

どうぞお…♡」

重「おちんちんお射精、またどうぞお…♡」

代「おちんちんお射精、またどうぞお…♡」

重「びゅっびゅっびゅっびゅー…♡

びゅるるるう…♡」

代「どっぴゅう、びゅううう…♡

びゅっぴゅっぴゅう…♡」

重「あはあ…♡

またいっぱい出ちゃったねえ…♡

たっくさんおちんちん♡

イクイクしちゃったね…♡」

代「おちんちん気持ちよかったね♡

お姉さんたちに、おちんちん抜き抜きしてもらうの、

最高だったねえ…♡」

重「ふふ…♡

でも、なんでかなあ…♡

まだまだおちんちんは、大きいまま…♡」

代「ボクももっと、

おちんちん気持ちよくなりたいよね…？」

重「だから、もっとしてあげる…♡

ボクのおちんちん、お姉さんたちが、もおっと…♡」

代「たっくさん気持ちよく…♡

してあげるう…♡

ふふふふふ…♡」

● 第3章

重「ほら…♡

ボクのおちんちん…♡

今度はどういう風に気持ちよくしてほしい…？」

代「お姉さんたちに、おちんちん抜き抜きしてもらうの…♡

すっごくよかったでしょ…？」

お姉さんのお手々でしこしこ…♡

最高だったよね…？」

重「お姉さんのおっぱいに包まれながら、

真っ白おしっこ、しーしー…♡

濃厚ホットミルクお漏らしするの、

すっごく気持ちいい…♡」

代「もっとお姉さんのおっぱい、味わいたい…♡

もっとお姉さんのおっぱいで、おちんちん大きくしたい…♡」

重「いいよお…♡

おっぱい味わわせてあげる…♡

ボクのお口で…♡

おっぱいのお味…♡」

代「ボクはもう、立派な男の子だけど…♡

今だけ、赤ちゃんに戻っちゃおうね…♡

ママのおっぱいちゅうちゅうしてた頃に、

ちょっとだけ、戻っちゃうの…♡

いい…?」

重「ほうら…♡

おっぱい、どうぞ…♡」

代「お顔の前に、ボクのお顔よりも大きいおっぱい、

だっぷんって…♡

してあげる…♡」

重「何をすればいいか、わかるよね…?」

目の前に、お姉さんたちのおっぱい♡

差しだされちゃったんなら…♡

やることはあ…♡

あんっ♡」

代「あっあん…♡

あはあ…♡

そう、そう…♡

お姉さんたちのおっぱい、ちゅうちゅうって…♡

んうん…♡」

重「あっ、ああっ、あっ、はあっ、あんっ、あんっ♡ やんっ♡」

代「あっ、あっい、んあ、ああん、あっ、あんっ♡ ああん♡」

重「はっああん…♡

ああ、すごおい…♡

おっぱいちゅうちゅう♡ とっても上手…♡

～人分のおっぱい、いっしょにちゅばちゅばあって…♡

はっあん…♡」

代「たくさんおっぱい、ちゅうちゅうしちゃっていいからねえ…♡

お姉さんたちのおっぱいたっぷり吸ってえ…♡

おちんちんむくむくさせようねえ…♡」

重「大きくなったおちんちは、もちろん…♡」

代「また、お姉さんたちが…♡

いっぱいしこしこしてあげるからねえ…♡

んふふふ…♡」

重「はあい、はあい…♡

おちんちんよしよし、おちんちんよしよし…♡」

代「どう…？

おっぱいちゅうちゅう吸いながら、おちんちんしこしこ…♡

さっきの耳舐めしこしこと、

どっちが気持ちいい？」

重「どっちもよねえ…♡

お姉さんたちにいっぱい甘やかしてもらいながら、

おちんちん、いいこ、いいこ…♡

どっちも最高に気持ちいい…♡」

代「今のボクは赤ちゃんだからあ…♡

おっぱいちゅうちゅうのこと以外、

なあんにも考えられない…♡

おっぱいちゅうちゅういっぱい吸ってえ…♡

おしっこザーメンお漏らしすることしか、

考えられない…♡」

重「おちんちンドキドキ…♡

おちんちんうずうず…♡

タタタマまで熱くなっちゃってえ…♡

おちんちんぴゅっぴゅ…♡

またしたあい…♡」

代「いいでちゅよお…♡

かわいい赤ちゃん…♡

かわいいボクちゃん…♡

お姉さんママたちのおっぱい、

もっと吸いまちようねえ…♡」

重「お口もおちんちんも、いっぱいいっぱい、

気持ちよくなりまちようねえ…♡

ママのおっぱい驚掴みにしてえ…♡

つんとした乳首♡

ちゅばちゅば♡　ちゅっちゅっ…♡

代「んふふ…♡　んふふ…♡

おっぱいちゅうちゅっ、とっても上手…♡

ママの乳首、とろっとろにされちゃってえ…♡

あん…っ♡」

重「あはぁ…♡

ちゅうちゅうしながら、鼻息ふー、ふーって…♡

たくさん興奮してるの、わかりまちゅよお…♡」

代「おちんちん気持ちいいでちゅねえ…♡

興奮しまくり、おちんちんがちがち…♡

また我慢汁、とろっとろに溢れちゃってえ…♡」

重「ぬるぬるのお汁…♡

おちんちんから出すだけじゃあなくって…♡

ママたちの方から、プレゼント…♡

してあげちゃいまちょうかぁ…♡」

代「おっぱいミルクが出ない代わりに…♡

あったかほかほかお汁…♡

ママたちのお口からぁ…♡」

重「ほら、あ〜ん…♡

してくださいゃあい…♡

おっぱいからお口離して、

こっち向いてくだちゃあい…♡

はあい、ありがとうございま〜ちゅ♡

どうぞ、ボクちゃん…♡

んうあ〜…♡

はあ…♡ んふふ…♡」

代「どうでちゅかあ…♡

ママたちの、えっちな涎…♡

お口の中に注いでもらって…♡

おいちいでちゅかあ…♡

ほうら…♡

こっちからもお…♡

んあ〜…♡

っはあ…♡

んふふふふ…♡

おいちいでちゅよねえ…♡」

重「いっぱいぐくしてくだちゃあい…♡

ママたちと、えっちなべろちゅーしながら…♡

涎をぐっくん…♡」

代「おちんちん元氣元氣になっちゃう♡

魔法の涎え…♡

ぐくぐくしてくだちゃあい…♡」

重「はっあ…♡」

代「んっはあ…♡ んふふ…♡」

重「べろちゅーしながらおちんちんちこちこ…♡

いっぱい嬉しいんでちゅねえ…♡」

代「我慢汁たっぷり漏れてきちゃってえ…♡

またイクイクしちやいそうなの…わかつちやいまちゅよお…♡」

重「いいでちゅよお…♡

いっぱいちゅっちゅ♡ しててあげまちゅからあ…♡

おちんちん、しーしー…♡」

代「タマタマから昇ってきちゃった、

ほかほかおちんちんミルクう…♡

どっぴゅんしちやいまちようねえ…♡」

重「はい、どうぞお…♡

おちんちんどうぞお…♡」

代「お口の中のお味…♡

ママたちと同じにしながらあ、おちんちん、

どうぞお…♡」

重「おちんちんお漏らし、してくだちゃあい…♡」

代「おちんちんお漏らし、してくだちゃあい…♡」

重「んふふふふ…♡」

代「んふふふふ…♡」

重「んっはあ…♡

はあい…♡

おいしい涎飲みながら、おちんちんぴゅっぴゅ…♡

またいっぱい出ちゃいまちたねえ…♡」

代「だけどまだまだ…♡

おちんちんぽかぽか…♡

いっぱいお漏らしできちゃいまちゅねえ…♡」

重「それなら、このまま続けて…♡

おちんちんちこちこ♡

しちやいまちゅからねえ…♡」

代「続けておちんちんイクイクしてえ…♡

もう一回、たくさんどっぴゅん♡

しまちようねえ…♡」

重「ん…♡

はっあ…♡」

代「んっあ…♡

んふふふふ…♡」

重「お姉さんママたちに、

いっぱい甘々べろちゅーしてもらって、

お顔もとろつとろでちゅねえ…♡」

代「このままにゆるにゆるべろちゅーしてたら、

幸せすぎて、頭真っ白になっちゃいそうでちゅねえ…♡」

重「ならあ…♡

お口にママたちの涎、いっぱい溜めたまま…♡

おっぱいちゅうちゅうに、戻っちゃいまちようか…♡

代「またママたちの乳首、ぺろぺろちゅうちゅうしながらあ…♡

おちんちんちこちこ♡

してもらいまちようねえ…♡

重「はい、どうぞお…♡」

代「おっぱい、ぱっくん…♡」

重「あはあん…♡」

代「やっあん…♡」

重「んう、んあ、んあっ、あっ、あっ、あっ…♡

ん、っく、ん、んふう、んあ、あう…♡」

代「んあ、んう、あん、うん、あん、あんっ♡

ん、んあ、はあ、あふ、ふあっ…♡」

重「んふふ…♡

ママたちといっぱいべろちゅーしたおかげかしら…♡

乳首にゆるにゆる、もっと上手に…♡

ああん…♡」

代「おっぱい、すごく気持ちよくされちゃってる…♡

お上手でちゅよお…♡

いいん、いいこお…♡」

重「えらいえらい、してあげるう…♡

おちんちんえらいえらあい…♡

よちよち、よちよち…♡」

代「イクイクしたばかりのおちんちん♡

またすぐにガチガチになってきてえ…♡

あっという間におちんちん♡

またイクイクしたくなっちゃいまちゅねえ…♡」

重「べろちゅーも、おっぱいちゅうちゅーもお…♡

幸せで、気持ちよくって♡

おちんちん最高でえ…♡

お漏らし我慢できないんでちゅねえ…♡」

代「タマタマから出てきた精子♡

ママたちに甘やかされて、

すぐにいっぱいいっぱいになっちゃってえ…♡

何度出してもタマタマ軽くないんでちゅねえ…♡」

重「それならいいでちゅよお…♡

また出してくだちゃいねえ…♡

ママたちのおっぱい、おいちおいちいってしながらあ…♡」

代「おちんちんびゅっくん…♡

どぴゅどぴゅびゅるん…♡

しまちようねえ…♡」

重「ほうら…♡

もっといっぱい、ちゅぱちゅぱぐっぞお…♡

ママたちのえっちな乳首♡

ちゅっちゅっちゅっちゅ…♡」

代「今のボクちゃんは赤ちゃんなんでちゅからねえ…♡

おっぱい飲むのが仕事でちゅよお…♡

はあい、はあい…♡」

重「おっぱいおいちい♡

ママのおっぱいおいちいおいちい♡

おちんちんイクイク♡

おちんちん出る出るう…♡」

代「いいでちゅよお…♡

はあい、はあい♡

おちんちんイクイク、どうぞ、どうぞお…♡」

重「出してくだちゃあい…♡

おちんちんイッてくだちゃあい…♡」

代「おっぱいちゅぱちゅぱ吸いながらぁ♡

おちんちん、どうぞお…♡」

重「はあい…♡

ぴゅっぴゅっぴゅっぴゅ…♡」

代「どくどく…♡

びゅるるる…♡

出てまぢゅよお…♡」

重「おちんちんイクイクしながら♡

おっぱいちゅうちゅう、続けてくだちゃあい…♡」

代「おちんちん出なくなるまで…♡

ちゅうちゅう♡ ちゅぱちゅぱぁ…♡」

重「んふふ…♡」

代「んふふふふ…♡」

重「はあい…♡

おっぱいおいしかったでちゅねえ…♡

いっぱいびゅーびゅーできて、

よかったでちゅねえ…♡」

代「ふう、ふう、ふうって…♡

お疲れ吐息、いっぱい出しちゃって…♡

お射精いっぱいしちゃって、疲れちゃいまちたか？」

重「ふふふ…♡

だけど、ボクのおちんちはまだまだ、

むくむくいっぱい…♡」

代「まだまだしーしーしたそうに…♡

びくびくしちゃってるう…♡

んふふ…♡」

重「それならもっと、もおっと…♡

気持ちいいこと、してあげる…♡」

代「ボクのタマタマ空っぽになるまで…♡

えっちなお遊び…♡」

重「続けちゃおうねえ…♡

「♡...♡」
♡♡♡♡♡♡♡♡

● 第4章

重「はあい…♡

お次はボクのおちんちんをお…♡

お姉さんたちのおっぱいで、包んであげちゃあう…♡」

代「むっちりデカ乳パイズリで、おちんちん、

搾ってあげるねえ…♡

んふふ…♡」

重「わかる？

パイズリ…♡

ボクのおちんちん、お手々でしこしこしてあげたみたい…♡

おっぱいでぐじぐじしてあげるのが…♡」

代「おっぱいの柔らかさ、あったかさはもう、

わかつちやってるでしょ…？

あれがおちんちにぜーんぶ…♡

のしかかっちゃうの…♡」

重「あは…♡

絶対気持ちいいって、頭でわかつちやっただ…♡

おちんちん、ぴくくって…♡」

代「ふふふ…♡

期待しちゃうよねえ…♡

うん、いいよ…♡

期待通りにおちんちん、気持ちよくしてあげる…♡

ほうら…♡

おっぱい、むっにゅん…♡」

重「あはあ…♡

お姉さんたちのおっぱいに飲み込まれて、

おちんちんないない♡ しちゃったね♡」

代「大丈夫だよお…♡

ここにちやあんとあるからね…♡

ボクの硬いおちんちん…♡

おっぱいの中で、ガチガチ、勃起してえ…♡」

重「いっぱいこすってあげるからね…♡

お姉さんたちのパイズリで、気持ちよくなってねえ…♡」

代「ほうら…♡

おっぱいずりずり…♡

始めえ…♡」

重「ずうり♡ ずうり♡

おちんちん、こす、こす…♡」

代「むちむち乳肉いっぱい押し付けてえ…♡

ずりずりずりずりい…♡」

重「どう？

お姉さんたちのおっぱいがあ、

ボクのおちんちん挟んで、

擦れ合って…♡」

代「間のおちんちん、むにゅむにゅの

揉みくちやあ…♡

みっちみちに締められちゃう…♡」

重「お手々でぎゅって握られるのとは、

全然違うでしょう？

んふふ…♡」

代「あは…♡

中でおちんちん、いっぱいびくびくしてる…♡

我慢汁、あつという間にお漏らししちゃってるう…♡」

重「さっきの残り汁も溢れ出して…♡

おっぱい、にゆるんにゆるんに汚れちゃってえ…♡

それがおちんちんにまた、絡みついて…♡

んふふ…♡」

代「ほうら、ほうら…♡♡

おちんちんぎゅっぎゅ♡

乳圧ぎゅっぎゅ♡

おちんちんむっぎゅう…♡」

重「にゆりにゆりにゆりにゆり…♡

おちんちんずりずりい…♡

ふかふかおっぱいで、ぎゅぎゅうされるの、気持ちいい…♡」

代「ふふ…♡

おちんちんどんどんおっきくなって、

いっぱい暴れて…♡

あん♡ おっぱいから先っぽ、出てきちゃった♡

お姉さんたちのおっぱいじゃあ、

抑えられなくなってきちゃったあ…♡」

重「ボクのおちんちん、強くてかっこいいねえ…♡

だからあ、お姉さんたちもお…♡

本気、出しちゃうわね…♡」

代「ボクのおちんちん、このお口でえ…♡

ぱつくんして、ぺろぺろして…♡

じゅるじゅる、フェラチオしてあげる…♡」

重「は…あ…♡」

代「は…あ…♡」

重「はあ…♡

あは、どう？

おちんちんじゅるじゅる…♡

これが、フェラチオよ…♡」

代「おちんちん、お口で舐め舐めされるの、

すっごいでしょ？

おちんちん、とろけちゃいそう…♡」

重「あは…♡

うん♡ 汚くなんてないの♡

ボクのおちんちんは汚くない…♡」

代「むしろまだまだきれすぎるぐらい…♡♡

お姉さんたちが、いっっぱい…♡♡

汚してあげるう…♡」

重「あはあ…♡

おちんちん、むずむずする？

タマタマ熱くなってきて、

またイクイクしちゃうそう？」

代「お姉さんたちにおちんちんいっぱい舐められて、

お漏らししちゃうそうなんだあ…♡」

重「いいわよ♡ いつでも出して…♡

このままいっぱい、ぺろぺろしてあげるから…♡」

代「お姉さんたちのことは気にせずにいい…♡♡

いつでもお漏らしどっぴゅん♡

しちゃおうねえ…♡

重「ほうら…♡　ほうら…♡

いいわよ、いいわよお…♡」

代「出しちゃえ出しちゃえ♡

お漏らししちゃえ…♡」

重「ひゃんっ♡」

代「んっはぁっ♡」

重「あぁっ、んっはぁ…♡

ボクの精液、いっぱい噴き出て…♡

んっう…♡」

代「お顔にいっぱい、ぶっかけられちゃってるっ…♡」

重「んっ、あっ、はっあん、あはぁ…♡」

代「ああ、ボクの精液…♡

勢い、すっごい…♡」

重「ふー…♡　ふー…♡

ふうふうう…♡」

代「ああ、すごい匂い…♡

新鮮、ぴちぴち…♡

元気な精子がいっぱい遊んでるの、

わかつちゃあう…♡」

重「んふふ、んふふふ…♡

おちんちん、びんびん…♡

まだまだ出せそう…♡

ボクのおちんちん、すごいわねえ…♡」

代「何度出して疲れない…♡

かっこいいおちんちん…♡

顔にびゅーびゅーぶっかけられて、

お姉さんたちも興奮してきちゃった…♡」

重「だからもう一回…♡

おちんちん、パイズリフェラで搾ってあげる…♡」

代「おちんちんたっくさん気持ちよくしてあげるから…♡

まだまだたくさん、ぴゅっぴゅしようねえ…♡

ほうら…♡ おっぱい、むっにゅん…♡」

重「おっぱいでおちんちん、ぎゅうぎゅうむちむち…♡

乳圧たっぷり、押し付けならあ…♡」

代「先っぽ…♡

いただきます…♡」

重「っはあ…♡

んふふふ…♡」

代「ボクのおちんちん…♡

精液の味が混じって、

もっと美味しい…♡」

重「ほうら♡ ほうら♡

おっぱいで根元、ぎゅうぎゅう締め付けながら…♡」

代「先っぽはたあっぷり、にゆるんにゆるうん…♡」

重「はっあ…♡

ついでにい…♡

精子いっぱい作ってくれてるタマタマも…♡

お手々で掴んで、もおみもみ…♡」

代「丸くてかわいいボクのタマタマ…♡

マッサージい…♡

んふふ…♡」

重「あはあ…♡

おちんちん、すごい勢いでびくびくびくうって…♡

イッたばかりで敏感なのに、

お口でこんなに舐められちゃったらねえ…♡」

代「乳圧ももっと強く…♡

おっぱいでおちんちん、潰れちゃいそうなぐらい強く…♡

むっぎゅう、むっぎゅう…♡

んふふ…♡」

重「あは♡ 大丈夫♡

ホントに潰れちゃったりはしないからあ…♡

ボクのおちんちん強くてカッコいいから♡

大丈夫…♡」

代「むしろお姉さんたちのおっぱい、

むぎゅむぎゅ押し返してきて…♡

すっごいねえ…♡

かっごいいねえ…♡

ボクのこと、好きになっちゃいそう…♡」♡

重「ええ、そう♡

ボクのこと、だあい好き…♡

食べちゃいたいぐらい、だあい好き…♡」

代「ボクのこと、食べたくなるぐらい好きだからあ…♡

おちんちん、ぱっくんってしちゃうの…♡」

重「んふふふ…♡

ええ、そうよ、そう、そう…♡

ボクも好きって言って…♡

お姉さん好き♡ お姉さん大好きって…♡」

代「好き、好き、大好きって言いながら…♡

おちんちんイクイクしちゃうねえ…♡」

重「ほうら…♡

タマタマぶるぶる震えて…っ♡

精液昇ってきたあ…♡」

代「出ちゃうねえ…♡

精液お漏らししちゃうねえ…♡

おちんちんイクイク…♡

ザーメン出る出るう…♡」

重「次はお漏らし、お姉さんたちのお口の中にしてみようね…♡

おちんちん、ぱっくんちゅうちゅう♡

ずっとしてあげるから…♡」

代「ボクのおちんちん汚くないからねえ…♡

おちんちんザーメンも、全然汚くないから…♡

お口の中に、びゅーびゅーびゅーって…♡」

重「いっぱい出してね…♡♡

お姉さんたちに、たくさん飲ませてね…♡」

代「ボクのおちんちん汁…♡

いっぱいごっくんさせちゃってねえ…♡」

重「ほら、出して、出して、出してえ…♡」

代「おちんちんどうぞ♡

おちんちんぴゅっぴゅ、どうぞお…♡」

重「出しちゃえ♡ イッちゃえ♡

おちんちんイクイク♡

おちんちん出る出るう…♡」

代「お姉さんのお口の中であ…♡

おちんちん、どっぴゅん…♡」

重「おちんちん、出あせ…♡」

代「おちんちん、出あせ…♡」

重「んうううん…♡」

んうううっ、んっふうう…♡」

代「んうう♡ んうううう…♡」

んっ、んうっ、んっむうう…♡」

重「んっふう…♡ ふうっ、ふう…♡」

んっううん…♡」

代「んううう…♡ ふうううう…♡」

ふう、ふう、ふう—う…♡」

重「んっぢぢ…♡」

んぐっ、んっぢぢんぐ、ぐぐぐ、ぐぐぐ…♡」

代「んっうん…♡」

んぐ、ぐぐぐ、ぐぐぐぐ、ぐぐぐぐ…♡」

重「っはぁ…♡

ああ、ボクのおちんちんミルクう…♡

ぜーんぶ飲んじやったぁ…♡」

代「熱々ぽかぽか、とろっとろのおちんちんザーメン…♡

ごちそうさまでしたぁ…♡

ふふふふふ…♡」

重「ねえ、ボク…♡

おちんちん、どんな感じ…？

まだお姉さんたちと、えっちなこと…できる？」

代「まだしたいよね…？

お姉さんたちね、もっと、もっと、ももっとえっちなこと…♡

ボクに教えられるよ…？」

重「したいなら…♡

ボクのお部屋…♡

お布団のあるお部屋…♡

連れてって…♡」

代「お布団の中で、すっごく気持ちいいこと…♡

教えてあげる…♡

「♡…♡」

● 第5章

重「ふふふ…♡」

さあ、始めましょうか…♡

お姉さんたちと…♡

今までで、いっちゃん気持ちのいいこと…♡「♡」

代「何をするかわかる？」

わからないよね…♡

じゃあ、教えてあげる…♡

ほら、見て…♡

八重お姉さんのお股…♡

ボクにだったらおちんちんが付いてるところ…♡

あそこに何があるか、見える…?」

重「ほら、ここよ…♡

おちんちんじゃあないのはわかるでしょう？

これはね…♡

おまんこって言うの…♡

おちんちんを、ぱっくんってしちゃうところよ…♡」

代「そう♡ ぱっくんって…♡

さっき、お姉さんたちがボクのおちんちん、

お口でぱっくんしたみたいに…♡

おまんこで、おちんちん、食べちゃうの…♡

それが、おちんちんが一番気持ちよくなれることなの…♡」

重「ふふ…♡

説明してもわからないわよね…♡

だから、すぐに体験させてあげる…♡

お姉さんとのセックス…♡

おまんこセックス…♡

ボクのおちんちんで、ね…♡」

代「怖くないからね…♡

ボクのお父さんとお母さんもしてることだから…♡

男の子が大人になるために、

絶対に必要なことなの…♡

だから、安心して…♡

おちんちん勃起させていいからね…♡」

重「さあ…♡

おまんこ、おちんちんに当てて…♡

ん…っ♡

濡れてるの、わかる…？

おまんこは、こういうものなの…♡

おちんちんをお迎えするために、ぬるぬるに、

濡れちゃって…♡

だから、こうして腰をゆっくり下ろすとお…♡

ほうら…♡

入ってく…♡ 入ってく…♡

ボクのおちんちん、ずっぶうって…♡」

代「ほら…♡ よく見て…♡

ボクのおちんちん、おまんこの中に…♡

ゆっくり、入ってく…♡

あったかあいお姉さんの中に…♡

にゆるにゆるの、おまんこの中に…♡

優しく飲み込まれてえ…♡」

重「はあい…♡

おまんこ、いらっしやい…♡

全部入っちゃったねえ…♡

あったかくって気持ちいい、お姉さんのおまんこ…♡

ふふふ…♡

どう？ 気持ちいい？

おちんちん、にゆるふわのおまんこに包まれて…♡

すっごくいいでしょ…？」

代「ふふ…♡

身体、ぴくぴくさせて…♡

気持ちいいの、我慢できないんだ…♡

よしよし、よしよし…♡

大丈夫だからねえ…♡

おちんちん気持ちよくても怖くない…♡

ほうら…♡

お姉さんのおっぱいに、お顔ぎゅうってしていいからねえ…♡

気持ちよすぎてびくびくするの、お姉さんのおっぱいに捕まって、

我慢しようねえ…♡」

重「ふふふ…♡

おちんちん、まだまだ気持ちよくなっちゃうからね…♡

気持ちのいいセックスの本番は、これから…♡

おまんこゆっくり、おちんちんずぶずぶって…♡

お手々やおっぱいと同じように…♡

おちんちんにゆるにゆる、しごいてあげる…♡

ほうら…♡

たん、たん、たん、たん…♡

腰を上下にい…♡ 動かしてえ…♡

ふふふ…♡

ああん…♡ すごい…♡

ボクのおちんちん…♡ いっぱい、動く…♡

んふふ…♡

びくびく、びくくん…♡ 跳ね回るの、止まらない…♡

あん♡ あん♡ ああん…♡」

代「あは…♡

足をぴーんって伸ばしちゃってる…♡

おちんちん気持ちいいの、どこかに逃がそうって、必死に…♡

よしよし、よしよし…♡

大丈夫だよお…♡

ほら、お姉さんのおっぱい、ちゅうちゅうして…♡

気持ちよすぎておかしくなっちゃいそうなの…♡

お姉さんのおっぱいにぶつけちゃってねえ…♡

ん…♡

そうそう…♡ おっぱいちゅっちゅ♡

ちゅっちゅっちゅ…♡」

重「ああ…♡

お姉さんも、おまんこ、気持ちいい…♡

あん♡ あん♡ あん♡ あん…っ♡

えっちな声、いっぱい出ちゃう…♡

あん♡ あん♡ あああん♡ ああん…っ♡

あはあ…♡

わかる…？

セックスって、こういうもの…♡

男の人と女の人がどっちも気持ちよくなるものなの…♡

ボクががんばればがんばるだけ…♡

お姉さんも気持ちよくなれるから…♡

お姉さんのために、がんばってくれる…？

お姉さんのことも、気持ちよくしてくれる？

ふふふ…♡
「♡」

代「ふふふ…♡

ほら、おちんちんががんばって…♡

がんばれ♡ がんばれ…♡

おちんちんいっぱい大きくして、八重お姉さんのこと、

気持ちよくしてあげようね…♡

ガチガチおちんちん、おまんこに、

いっぱいずぶずぶしてあげようねえ…♡
「♡」

重「あん♡ ああん♡ あん♡ あん♡

んっ♡ あん♡ あん…っ♡

はっあん…っ♡

すっい、すっいおい…♡

ボクのおちんちん、いっぱい膨らんで…♡

お姉さんの中、ぐにぐにいつて…♡

ふふふ…♡

いっぱい気持ちよくなっちゃう…♡

んっ、ああんっ、はっあん…♡

はぁ、はぁ…♡

ほら、ボク…♡

八代のおっぱいもいいけど…♡

こっちにも…♡

八重お姉さんと、ちゅー…しよ？

おまんこしながらべろちゅーするの…♡

とっても気持ちいいんだよお…♡

あゝ…♡

っはぁ…♡

ね？ そうでしょう？

ふふふ…♡

っはぁ…♡

おちんちんまた、びくんびくんって…♡

気持ちよさそうに震えちゃってる…♡

ふふふ…♡」

代「よしよし、よしよし…♡

かっこいいよお…♡

もうボクは、立派な大人だね…♡

こんなに上手にセックスできるんだもんね…♡

おちんちん上手な、大人の男…♡

すごいねえ…♡

よしよし、よしよおし…♡」

重「ふふふ…♡

じゃあ、ボクも大人になったんだから…♡

大人のセックス、してみよっか…♡

ここまでは、ゆっくりにゆぷにゆぷ♡

おちんちん、いいこいいこっしてあげてたけど…♡

大人のセックスは、もっと強く…♡

二人とも、気持ちよくなって…♡

頭の中くちゃくちゃになっちゃうようなおまんこセックス…♡

しちゃうものなの…♡

できる…？　できるよね…♡

ボク、かっこいい大人だもんね…♡

じゃあ…行くわよ…♡

お姉さんの、おまんこ…♡

強めにピストン…♡

ほうら…♡　ばんばんばんばん♡

おまんこピストン…♡

あはあ…♡

そんな仰け反っちゃうぐらい気持ちいいんだ…♡

大人のピストンは、まだ速かったかなあ…♡」

代「漏れちゃう？」

精子漏れちゃうんだ？　ザーメン出ちゃうんだ♡

おちんちんイクイク♡

おちんちん出る出る♡

イッちゃうね、ザーメン出しちゃうね…♡」

重「いいわよ、ほら…♡

お姉さんの中に♡　精液、出していいわよ…♡

さっきお口に出したみたい…♡

びゅーびゅー…♡ どっぴゅう…♡

おちんちんどっくんしようねえ…♡

おまんこの中にいっぱい精液出せるのも、

かっこいい大人の証だからねえ…♡」

代「ほら、おっぱい吸って♡

ちゅうちゅうちゅぱちゅぱ♡

お姉さんのおっぱい…♡」

重「やぁん…♡

べろちゅーしょ？

お姉さんと甘々べろちゅー…♡

キスしながらびゅーびゅーするの、

最高ののよ？

ほらぁ…♡

はぁ…♡」

代「ふふふ…♡

キスとおっぱい、交互に味わっちゃって…♡

贅沢なセックス、覚えちゃったね…♡

もう戻れないね…♡

ボクはもう、お姉さんたちの、ドスケベセックスじゃないと…♡

おちんちん満足できなくなっちゃった…♡」

重「でも大丈夫♡ お姉さんたちは、

いくらでもボクとセックスしてあげるからね…♡

何にも心配ないからねえ…♡

ほうら…♡

だから、出して…♡

おまんこびゅーびゅーしちゃおうね…♡

お姉さんの中で、あったかあいおまんこに包まれて…♡

おちんちんイクイクしようねえ…♡」

代「はあい、どうぞ、どうぞお…♡

おちんちんどうぞ♡ おちんちんどうぞお…♡

はあい♡ はあい、はあい、はあい…♡」

重「おちんちん、びゅっびゅっ…♡」

重「んっうっうん…♡

あんっ♡ やあん…♡

精液、すごい勢いで出てくる…♡

んっうっうん…♡

はっ、んっ、はぁんっ、はっぁ…♡

お姉さんのおまんこに♡ どん、どん…♡

ふっう、ふっう、んっぁ、はぁん…♡

すっごおい勢いで…♡ お射精してるう…♡

お姉さんのおまんこ、真っ白にされて…♡

はぁ、はぁ、はぁぁ…♡

まだ、出てる…♡

んっ、んっ、んうん…♡

いいわよ、全部…♡

おちんちん、出し切って…♡

ふふ、ふふふふふ…♡「♡」

代「いっぱい出せたねえ…♡

おちんちん、すごいねえ…♡

いっぱい中出しできて、えらい、えらい…♡

童貞卒業おめでとう…♡

ふふふ…♡「♡」

重「ええ、そう♡ 童貞卒業…♡

大人の男の人になったって意味…♡

よかったわね、ボク…♡

じゃあ、そのお祝いに…♡

っはあ…♡

このままもう一回…♡

セックス、経験しちゃおっか…♡

だけど今度は、おまんこじゃなくなつてえ…♡

お姉さんの…♡

お尻の穴…♡

んっう…♡

はっあああん…♡

あっはあ…♡

んふふふふ…♡
「

代」ふふ、ふふふ…♡

お尻におちんちん、入っちゃったね…♡

どう？ 八重お姉さんのお尻…♡

おまんことは全然違うでしょ？

ふふふ…♡
」

重「そうだよ…♡

お尻の穴でもセックスできるの…♡

おまんこでも、お尻でも、おちんちん気持ちいい…♡

女の人ってすごいでしょう？

ふふふ…♡

でも、すごいのはもちろん、これから…♡

お尻の穴も、いっぱいずぶずぶ♡

動かしてあげるから…♡

おちんちんいっぱい気持ちよくなっちゃおうね…♡

ほうら…♡

んっうん…♡

お尻の穴で、おちんちん、にゅぷにゅぷう…♡

んっ、あっ、あう、んっ、んうっ、ひあ♡

っああ、んあう、んっく、くあ…っ♡

はっあん…♡

んっあ、んうん…♡

おまんこに精液、注いでもらって…♡

お姉さんも、身体、敏感になっちゃってる…♡

はあっ、んんあ、つくあ…っ♡

んうっああん、うん、あんっ、あっ、んあ、ああ…っ♡

はっあん…♡

えっちな声、いっぱい聞かせちゃう…♡

やあん、恥ずかしい…♡」

代「すごいねえ、ボク…♡

大人でも、下手くそな男の人だと、

女の人にあんあん♡なんてさせられないのに…♡

セックス上手だね…♡

おちんちん、すごいんだあ…♡

かっこいい…♡ 素敵…♡

どんどんボクのこと、好きになっちゃう…♡

ほら、おっぱい吸って…♡

かっこいいボクに、お姉さんも、

気持ちよくしてもらいたいなあ…♡

んっあん…♡

あは…♡ そうだよ…♡

お姉さんのおっぱいたくさん吸って、

感じさせてえ…♡

んっうん…♡

んふふ…♡」

重「ひい、あはあ、ううあっ…♡

ああ、ん、んふ、んあ、んう、あ、っああ…♡

あ、ああっ、ん、んふう、んっ、んあ、あん、んう…っ♡

んふふ…♡

おちんちん、すっごくガチガチ…♡

お姉さんのお尻、広げられて…♡

やっあん…♡

ピストン、止まらない…♡

お尻の穴、気持ちよくって…♡

幸せいっぱい…♡

んあ、うっふ、うん、あは、あんっ、あんっ、あんっ♡

ん、んあ、あん、ああ、あん、ああ、んっ♡

はっ、んっ、はあんっ、はっあん…♡

ほら、ボク…♡

もっとこっちに構ってちょうだい…♡

ボクのお手々で、お姉さんの大きなおっぱい♡

下から支えて…♡

ボクのお手々が全部埋まっちゃうぐらい大きいおっぱい…♡

ずっしり支えてえ…♡

んっあん…♡ そう、そう…♡

そうやってえ、おっぱい揉み揉み…♡

おっぱい上手う…♡

おっぱい揉み揉みいっぱいしてもらって、やっあん…♡

お姉さん、いっぱい気持ちよくなっちゃう…♡

んふ、んっふ、ああ、ああ、ああん、んあん…♡

んあっ、あんっ、あっ、んあ、ああんっ♡

あはあ…♡

お尻セックス、気持ちいい…♡

ボクのこと、大好きになっちゃう…♡

お尻きゅんきゅん、おちんちん締め付けちゃう…♡

ああ、んっ、うん、あんっ、あ、あっ、あんっ♡

やんっ、ああ、うあんっ♡

あん、うん、あん、あんっ、ん、んあ、はあ、あふ、ふあっ…♡

んふふふふ…♡」

代「ほら、ボク…♡

もっとお姉さんたちに、かっこいいところ、見せてくれる？

上で動いてる八重お姉さんに合わせてえ…♡

ボクもおちんちん、上下に動かすの…♡

できる？

ボクもピストン、できるかな？

上手にできたら、もっといっぱい、

気持ちよくなれるよお…♡」

重「んっああああん…♡

ああ、ん、んふ、んあ、んう、あ、っああ…♡

あ、ああっ、ん、んふう、んっ、んあ、あん、んう…っ♡

あはあ…♡

すっごおい…♡ ボクのおちんちん、

んっあん♡ お尻の穴っ♡

ずっぶん、ずっぷうん…♡

んあ、んふう、うう、うあ、あう、んう、ん、んっく、くう…♡

んんんう…♡ んっああああ♡ んっううう♡

あはあ…♡

いっぱい感じちゃあう…♡

お尻気持ちよくなっちゃうう…♡

あんっ♡ あんっ♡

好きっ♡ 好き…♡

ボク…♡ かっこいい…♡

はっあああ…♡

お姉さん、お姉さんって…♡

いっぱい甘えながら、かっこいいピストン…♡

とっても素敵…♡

んふふ…♡」

代「おちんちん、また出ちゃう？

お姉さんのお尻の穴に、熱いのたくさん出しちゃうんだ？

いいよお、出してえ…♡

おちんちん、お射精させてえ…♡

お姉さんのお尻の中にも、ザーメンどっぴゅっ…♡

お漏らしじゃあなくってえ…♡

ボクの意志で、中出ししてやるぞおって…♡

いっぱい気持ちよくしてやるっ♡って♡

びゅーびゅーしてあげて…♡

かっこいいお射精、見せてあげて…♡

重「ええ♡ 来て、来て♡ ボクう…♡

お姉さんのお尻の穴に♡

んっうん…♡

ボクのおちんちんで喜んでる、お尻にい…♡

ザーメンミルク、中出ししてえ…♡

んあっ、ん、んあ、あん、ああ、あん、ああ、んっ♡

んふ、んっふ、ああ、ああ、ああん、んあん…っ♡

あっはあ…♡

ああんっ、気持ちいい、気持ちいい♡

ボクのおちんちん、すっごおい…♡

ん、んあ、んっ、うん、あんっ、あ、あっ、あんっ、いやんっ♡

出して♡ 出してえ♡

精液出して♡ ぴゅっぴゅしてえ…♡

どうぞ、どうぞ、おちんちんどうぞお…♡

はあい、はあい…♡

ぴゅっぴゅ、ぴゅっぴゅ…♡

おちんちんイッて♡ イッて♡

イッて♡ イッてえ…♡

びゅるびゅる出してえ…♡

ああああん…♡

んっうん…♡

出てるっ♡ 中出し…♡

おちんちん、ぶっびゅう…♡

お尻の中に、熱いのっぱあい…♡

ふふ、ふふふふふ…♡」

代「はあい…♡

よしよし、よしよし…♡

すごいねえ…♡

言われたとおりに中出しできたねえ…♡

お姉さんにおちんちんイカされるんじゃあなくて…♡

自分でお尻に、ザーメンびゅーびゅー♡

してあげられたねえ…♡

かっこいいよ…♡

大人の男のセックス、できたねえ…♡

ふふふふふふ…♡」

重「っはあ…♡

ふう、はあ…♡

ふふ…♡

じゃあ、次は…♡

八代お姉さんにも…ね？」

代「こっちのおまんことお尻にも…♡

かっこいいボクのザーメン…♡

たくさん中出ししてちょうだいね…♡

よろしくね…♡ ボ・ク…♡

んふふふふ…♡」

● 第6章

代「ほうら…♡ 見て…♡

八代お姉さんのおまんこ…♡

今度はここに、ボクのおちんちんが入るんだよ…♡

八重お姉さんとどっちが気持ちいいかなあ…♡

んふふ…♡」

重「終わった後、感想聞かせてちょうだいね♡

そうしたら、ボクがよかったって言うてくれたおまんこ、

もう一回、セックスさせてあげるからね…♡」

代「おちんちん大きくなるまで…♡

何度も何度も…ね♡

さあ…♡

入れちゃうよ…♡

おちんちん、おまんこの中にい…♡

っはぁ…♡

ゆるっくり…♡ 入れたげる…♡

お姉さんのおまんこの形…♡

おまんこのひだひだ一枚一枚の感触…♡

おちんちんに、教えてあげる…

はぁい…♡

にゆるるるる…♡」

重「入ってくよお…♡

ボクのおちんちん、おまんこの中あ…♡

さつき童貞卒業したばかりのおちんちん…♡

また別の女の人の中にい…♡

ボクぐらいの年で、一気に二人も経験しちゃうなんて…♡

うらやましい…♡

一生忘れられない思い出だねえ…♡

お姉さんのおまんこの感触まで…♡

脳みそに刻み付いちゃうねえ…♡

ほら、ほら、ほうら…♡」

代」にゅっぶん…♡

んふふ…♡

はい、ぜんぶ…♡ 入ったよお…♡

ふふふ…♡

おちんちんびっくんさせて…♡

のけぞっちゃうぐらい、おまんこ気持ちいいんだね…♡

よしよし、よしよし…♡

おまんこでおちんちん、にゆるにゆる、よしよししてあげる…♡

女の人はこうやってえ…♡

おまんこの中も、自由に動かせちゃうからねえ…♡」

重「ふふ…♡

まだおちんちんピストンもしてないのに、

おちんちん揉みくちやにされちゃって…♡

タマタマほかほかになっちゃうね…♡

精子いっぱい中で作っちゃう…♡

お姉さんの中に出す用のザーメン…♡

いっぱい出来ちゃう…♡

ぴゅっぴゅしたくなっちゃあう…♡」

代「いつでも出していいからね…♡

お射精ぴゅっぴゅ、我慢しちゃだめ…♡

お姉さんのおまんこの中、

好きな時に好きなだけ、どっぴゅんしちゃおうねえ…♡

ほうら…♡

お姉さんも、おちんちん…応援してあげるから…♡

おまんこ、にゅぷにゅぷ…♡

ずぶずぶばんばん…♡

ふふふ…♡」

重「始まっちゃったねえ…♡

二度目のセックス…♡ おちんちん、気持ちいいね…♡

わかる…？

おまんこの感触の違い…♡

人によって、こんなに違うんだよ…♡

それがわかる男の子なんて、

ボクぐらいだよ…♡

すごいねえ…♡ ふふふ…♡

ほうら…♡ えらいボクにはあ、ご褒美あげちゃう…♡

お姉さんのおっぱい、むぎゅうって掴んで…♡

先っぽちゅうちゅう、吸っちゃおうねえ…♡

あっあん…♡

ふふふ…♡ よしよし…♡」

代「ああ、ボクのおちんちん、すごく硬あい…♡

んっ♡ あんっ、あっあん…♡

どんどん大きくなってくる…♡

お姉さんの中で、どんどんかっこよくなっていくよお…♡

ほうら…♡

お姉さんの大きなお尻、ボクの小さな身体で受け止めて…♡

むっちりおまんこ、おちんちんで跳ね返してくるう…♡

立派な大人おちんちん、かっこいい…♡

あんっ、んあんっ♡ あんっ、あんっ、あっあん…♡

ボクとのセックス…♡

お姉さん、本気で感じちゃってるう…♡

んっ、んっ、んっうんっ♡

はっああん…♡

あんっ、やんっ、やっあん…♡

んふふ…♡

ボクのこと、好きになっちゃう…♡

お姉さん、ボクのお嫁さんになりたくなっちゃったあ…♡

あゝ…♡

っはあ…♡

ほうら、キス…♡

べろちゅー、もっとしましょ？

お嫁さんとキスするのは、当たり前でしょ？

んふふ…♡

はあ…♡

好き、好き、好うき…♡

んふふ…♡」

重「ふふ…♡

おっぱいとお口、交互に吸って、吸われて…♡

おちんちんといっしょに、

お口もいっぱい幸せだねえ…♡

お姉さんたちと甘々交尾…♡

うれしくなっちゃうね…♡

最高の気分になっちゃうねえ…♡」

代「お姉さんも今、とっても幸せえ…♡

ボクのお嫁さんになれてえ…♡

ボクのおちんちんで気持ちよくしてもらえて…♡

幸せだよお…♡

ああん♡ んっああん…♡

んっ、あんっ、やっあんっ、はっあん…♡

好き…♡

ボクう…♡ 好き好き好き…♡

はあんっ、ああん…♡

んっ、あんっ、あっあん…♡

はっあああ…♡」

重「んっう…♡

おっぱい吸う力、強くなってる…♡

これってえ…♡ もしかして、

おちんちん、我慢しちやってる？

もうおちんちんイクイクしそうなのに、

お姉さんたちのこと喜ばせようと思って…♡

できるだけ長くセックスしようと思って、

必死になってる…？

んふふ…♡

もう…♡ そんなことしなくてもいいの…♡

いい子ねえ…♡ よしよし…♡」

代「そうだよ、ボク…♡

おちんちん出したくなったんなら、いつでもびゅー…って…♡

お姉さんの中に、どっぴゅん♡

していいんだよ…♡

ボクがまだ小さいからとかじゃあなくてえ…♡

お姉さんたちは、ボクにいっぱい気持ちよくなってほしくて、

おまんこしてあげてるんだからね…♡

だから、ほうら…♡

お姉さんとちゅーしながら…♡

いっぱいおちんちん、ぴゅっぴゅしよ…♡

お姉さんの中に、熱々ザーメン…♡

タマタマから溢れさせちゃってえ…♡

っはぁ…♡

ほら、ほうら…♡

おまんこの一番奥う…♡

おちんちんにむちゅうってくっつけて…♡

ここだよ…♡

ここに精子、びゅーって出すの…♡

できるよねえ…♡

お姉さんのおまんこの、一番奥のお部屋あ…♡

大事なところに…♡ 精液、びゅるるう…♡

できるよねえ…♡

んふふ…♡「

重」ほうら…♡

出しちゃえ、出しちゃえ…♡

ボクの精液、お姉さんのあったかいおまんこに、

中出しぴゅっぴゅ…♡

気持ちいいお漏らし…♡

最高のおちんちんどっぴゅん…♡

お嫁さんおまんこに、種付けしちゃおうねえ…♡」

代「出して♡ 出して♡

どっぴゅん出してえ…♡

おちんちんどっぴゅん♡

おちんちんびゅるう…♡

出して、出して♡ イッて、イッてえ…♡

どうぞ、どうぞお…♡

はあい…♡

おちんちん、びゅっびゅっびゅう…♡

んっううん…♡

んっ、ふっ、んっう…♡ んふふ…♡

んっはあ…♡

おちんちんぴゅっぴゅ…♡

いっばい出てるねえ…♡

いいよお…♡ 出してえ…♡

熱々おちんちん汁…♡

お姉さんのおまんこ、もっといっばい…♡

ふふふ…♡「

重「おちんちんどっぴゅん…♡

幸せお射精、いっぱい出てる…♡

気持ちいいね…♡

中出し気持ちいい…♡

あったかおまんこに包まれながら、

おちんちんお射精する感覚…♡

しっかり覚えておこうねえ…♡

ふふふふふ…♡
「

代「はあい…♡

おちんちん、お疲れさまあ…♡

いっぱい出せて、えらいえらい…♡

っはあ…♡

んふふ…♡

だけど…♡ さっき、八重お姉さんとしたこと…♡

覚えてるよね…？

八代お姉さんにも、もちろん、同じこと…♡

してくれるよね…？」

重「おまんこの次は…お尻でえっち…♡

にゅっぷりお尻おまんこで…♡

おちんちん、搾られちゃおうねえ…♡」

代「ほうら…♡

ボクのおちんちん、硬いままあ…♡

お姉さんのために勃起させてくれてるおちんちん…♡

お尻の穴で…♡

お迎ええ…♡ んっうん…♡

あっ、はっ、んっううん…♡

ふっ、はっ、はっああ…♡

ああ、お尻、気持ちいい…♡

ふっう、ふっうう…♡

んふふ…♡

いっぱい動いてあげるからね…♡

ボクのお嫁さんとしてえ…♡

おちんちん、お尻の穴でも、いっっぱい…♡

気持ちよくしてあげるう…♡♡

んうあ、んっ、ん、んう、んっ…♡

っああん…♡

ピストンする度、お腹の中の精液、

たぶたぶ揺れてえ…♡

はっあん…♡

お尻におちんちん入ってるのに、

おまんこまで、気持ちいい…♡

やん、あんっ、いや、あん、あんっ、あう、うんっ、あ、んっ♡

んっ、うん、あんっ、あ、あっ、あんっ♡

んっ、あっ、はっあん…♡

んふふふふ…♡」

重「ふふふ…♡

お尻の穴でもお嫁さん交尾…♡

おちんちん、幸せいっぱい、

終わらないねえ…♡

ほうら…♡ こっちのおっぱいも、

ちゅうちゅうちゅぱちゅぱ…♡

お嫁さん以外の女の人も気持ちよくしてあげられるのが、

かっこいい男の子だよお…♡

んっうん…♡

ふふふ、ありがとう…♡

いいい、いいいお…♡

かっこいいよお…♡

素敵な男の子…♡

八重お姉さんも、お嫁さん、なりたくなっちゃうなあ…♡」

代「いいよねえ…♡ ボク…♡

お嫁さん、二人になっちゃっても…♡

二人もお嫁さんがいる男の子なんて、

他にいないもんねえ…♡

大きなお姉さん二人ともお嫁さんにしてえ…♡

毎日毎日、えっちなこと、しまくっちゃおうねえ…♡

おまんこも、お尻も…っ♡

おっぱいも、みいんな…♡

ボクだけのものにしちゃおうねえ…♡

ほら、ほうら…♡

おちんちん、きゅうきゅう…♡

お尻で締め付けてえ…♡

っああん…♡

お尻、拡がっちゃう…♡

ボクのおちんちんの形になっちゃあう…♡

あはあ…♡

ん、あん、はあ、ああん、うん♡

あんっ、あっ、んあ、ああんっ♡

んっ、あっ、やあんっ、あっあん…♡」

重「ほら、ボク…♡

かっこいいところ、もっと見せて…♡

さっき八重お姉さんにしたみたいなこと…♡

八代お姉さんにもしてあげようね…♡

八代お姉さんの大きなお尻…♡

ボクのかわいいお手々でむぎゅって掴んでえ…♡

おちんちん、強おく…♡

突き上げパンパン…♡

お姉さんのお尻を、かっこいいおちんちんで、

いっぱいほじほじ…♡」

代「っあああん…♡

んっ、あんっ、すっごいつ、んっ、はあんっ♡

おちんちん、カッコいい…♡

強いピストンでっ♡ お嫁さんのことっ♡

いっぱい、感じさせてくれてえ…♡

ああ、あん、うん、うつふ、うん、あは、あんっ、あんっ、あんっ♡

ん、んあ、あん、ああ、あん、ああんっ♡

んっうん…♡

素敵い…♡ かっこいい…♡

はっ、はあっ♡ 好きっ♡ 好きっ♡

ボクう…♡ だあい好き…♡

んっ♡ んっ♡ んっうんっ、はっああ…♡

んふ、んっふ、ああ、ああ、ああん、んあん…♡

んっうあっ、あっふっ、おっ、んっお、んうっ♡

ふっ、はっ、んっくう、ああああ…♡

んふふ…♡」

重「もうすっかりセックス上手になっちゃったね…♡

セックス上手な男の子、みんなにモテモテになっちゃうよ…♡

お姉さんたち以外の女の子も、

このおちんちんでメロメロにさせられちゃうよ…♡

すごいねえ…♡

でも、ボクはお姉さんたちの旦那様だから、

そんなこと、しないよねえ…♡

お姉さんたちとえっちするだけで、

幸せすぎて、充分だよねえ…♡

このおっぱいとおまんこだけで、

おちんちんたくさん、びゅーびゅーできちやうもんねえ…♡

ふふふ…♡

よしよし、よしよおし…♡

お姉さんたちは、ボクのものだからねえ…♡

ボクだけの、お嫁さんだからねえ…♡」

代「あん♡♡ あん♡、あ♡ああん♡♡

おちんちん、びくびくうって…♡

お嫁さんのお尻おまんこに、

ぴゅっぴゅしたくなっちゃったんだね…♡

いいよお…♡

出しているよお…♡

んっうん…♡

ボクのおちんちんでこすられて、

ぽっかぽかになったお尻の中に…♡

熱々おちんちん汁、中出ししてね…♡」

重「お尻の中まで、真っ白にしちゃおうねえ…♡

前も後ろも、お嫁さんのえっちな穴あ…♡

ボクのザーメンで埋め尽くしちゃうねえ…♡」

代「ほうら…♡

出して、出してえ…♡

どぴゅどぴゅ出してえ…♡

いっぱいびゅーびゅー…♡

精液出してえ…♡

ほら、お姉さんのお尻、ぎゅぎゅうって掴んで…♡

離さないぞお…♡って…♡

ボクのお嫁さんなんだぞおって…♡

お尻にいっぱい、熱いの、出してえ…♡

んっ♡ んっ♡ あんっ♡

はっあん…♡

出して、出して、出して、出してえ…♡

あっ♡ あっ♡ あっ♡ あっ♡ あっあああ…♡

んっううん…♡

熱いの、たくさん…♡

びゅっびゅっびゅっびゅううう…♡

はぁぁぁ…♡

んっ、はっ、んっは♡ んっうん…♡

ふうう、ふううう…♡

いっぱい、出てる…♡

はぁ、ふう、はぁ、はぁ…♡

ふふふふふ…♡」

重「いっぱい出せて、えらい、えらい…♡

おちんちんかっこいい男の子…♡

お姉さんたち、大好きだからねえ…♡

ふふふ…♡」

代「あ…♡ もうこんな時間…♡

気持ちよくセックスしてたら、

いつの間にか夕方になっちゃった…♡

お姉さんたち、そろそろ帰らないと…♡」

重「んう…？

あは♡ ボクう…♡

今、そんなのイヤだ、って思ったでしょ？

お姉さんたちと、もっといっしょにいたあいつて…♡」

代「ふふ…♡

お姉さんたちもだよ…♡

まだまだボクと、いっしょにいたい…♡

だからね…♡

今日はこのまま、ボクのお家にお泊まりしてもいいかな？」

重「そうすれば、明日の朝までずっといっしょにいられるよ…♡

どうかなあ…？」

代「あは♡ うん、ありがとう、ボク♡

じゃあ、お泊まりさせてもらっちゃうね♡」

重「それならあ…♡

いっしょにお風呂、入っちゃおうか…♡

汗もたっぷりかいちゃったし…♡

狭いかもしれないけど、ω人いっしょに…♡」

代「いいよね？ もちろん…♡

ふふふ…♡

じゃあ、お風呂、案内してね♡

重「ボクの身体…♡

お姉さんたちがきれいきれいにしてあげる…♡

ふふふふふ…♡」

● 第7章

重「はあい、ボクう…♡

身体、きれいにしてあげるからねえ…♡」

代「お姉さんたちが、いっぱい洗ってあげるからねえ…♡」

重「ほうら…♡

ボクの小さい身体…♡

お姉さんたちのおっぱいで包んでえ…♡

んふふ…♡」

代「おっぱいスポンジで、

いじいじしてあげるう…♡」

重「ほうら…♡

いじいじいじいじいじいじ…♡」

代「おっぱいたくさん押し付けられて、

あわあわいっぱいだねえ…♡

んふふ…♡」

重「あは♡ なぁに？ ボク…♡

もしかして、普通に身体、洗ってほしかった？

だったらごめんね♡」

代「だけど本当は、ボクもこういうこと、

期待してたんでしょう？

普通にお風呂に入るだけなんて、

思ってたかったのよね？ ふふふ…♡」

重「そうでしょう？

だって、お姉さんたちのおっぱいに包まれてえ…♡

ボクのおちんちん、またガッチガチい…♡」

代「あっという間に勃起してるもんねえ…♡

んふふふふ…♡」

重「ほうら♡ ほうら…♡

泡まみれのおっぱいでえ、

ボクの全身、パイズリしてあげるう…♡」

代「タマタマとお尻い…♡

ごしごし、ごしごし…♡

タマタマ優しく揉み揉みしてえ…♡

お尻は、割れた谷間の中までにゆっぶり、

指、差し込んで…♡」

重「あはあ…♡

気持ちよさそうな声、いっぱい出てる…♡

おちんちんとタマタマ、

いっしょに現れてるだけなのにねえ…♡」

代「ボクの大事なところ、

いっぱい洗ってもらえて嬉しいんだねえ…♡

いいよお…♡

もつときれいにしてあげるう…♡

タマタマもお尻も、ごしごしごし…♡」

重「あはあ…♡

おっぱいに包まれて、幸せそうなお顔…♡

おちんちん熱々で、気持ちよさそうねえ…♡」

代「かわいい喘ぎ声、またいっぱい…♡

タマタマ震えて…♡

お尻もきゅんきゅん、反応しちゃって…♡」

重「柔らかかったか乳肉に包まれて…♡

おっぱいに溺れて、頭真っ白…♡

おちんちん気持ちよすぎて、

変になっちゃいそうだねえ…♡」

代「もう普通のお風呂、入れなくなっちゃったね…♡

お風呂に入る度に、お姉さんたちのおっぱい、

思い出して…♡

おちんちん勃起して、我慢できない…♡」

重「ほうら…♡

おちんちん出しちゃえ…♡

幸せおっぱい包みでザーメンお漏らし…♡

あわあわたっぷり全身パイズリ洗いで、

濃厚お射精…♡

ぴゅっぴゅしちゃえ…♡」

代「出して♡ 出して…♡

ほかほかミルク…♡

おちんちんとタマタマ、お尻まで

泡まみれにされて…♡

おちんちん汁、いっぱい出してえ…♡」

重「おちんちん…♡　びゅっびゅっびゅう…♡」

代「おちんちん…♡　ぴゅっぴゅっぴゅう…♡」

重「あはぁ…♡

出てる、出てる…♡

どっくん、どっくん…♡

おちんちんお漏らし…♡」

代「おっぱいに全身包まれながらお射精、

気持ちいいねえ…♡

勢いよくお射精♡　かぁっこいい…♡

ふふふふふ…♡」

重「ふふふ…♡

ほら、見て…♡

お風呂の床の上に、あんなに精液、

ぶちまけられて…♡」

代「まだまだたっぷり出せちゃうねえ…♡

おちんちん勃起、全然、

治まらないもんねえ…♡」

重「じゃあ…♡

また、おちんちんぱんぱんしょっか♡

お姉さんたちのおまんこに、

ザーメンびゅーびゅー♡

しちゃおっか…♡」

代「セックス、もうとっても上手になっちゃったもんね♡

だから、今度はボクのおちんちんで、

お姉さんたちのおまんこ、ボクの方から、

気持ちよくしてくれる？」

重「ふふふ…♡

ほら、こっちい…♡

うしろから、お姉さんのおまんこに、

おちんちんずっぶん、しちゃってね♡

お姉さんのお尻にしがみついて、

へこへこばんばん…♡

かっこいいおちんちんで、おまんこずぶずぶ♡

いっぱい犯して…♡」

代「ん〜？ あは…♡

そうだねえ、お姉さんたち大きすぎて、

ボクの身長じゃあ、おまんこにおちんちん、

届かないねえ♡

でも大丈夫…♡

ほうら…♡

お姉さんがこうして持ち上げててあげるから…♡

持ち上げたボクを、おっきいお尻に、

押し付けてえ…♡

ほうら、入るよお…♡

おちんちん、ずっぷうん…♡」

重「ああん…♡

あっはあ…♡ ボクのおちんちん♡

入ってきちゃった…♡

熱々、ぽかぽか…♡

ボクのおちんちん…♡

気持ちいいわぁ…♡

ほら、動いて、動いてえ…♡

お姉さんのお尻や腰に、がっしりしがみつきなごらぁ…♡

いっぱいおちんちん…♡

奥まで叩きつけて…♡」

代「お姉さんがここで支えててあげるから、

怖くないよ…♡

ほぅら…♡

ぱごぱごばんばん…♡

がんばってえ…♡」

重「あああん…♡

あん♡ やん♡ おまんこ、ずぶずぶう…♡

にゅっぶ♡ にゅっぶ♡

出し入れすんごおい…♡

おまんこ、気持ちいい…♡

んいいい…♡ はっ、はっ、んっふう、はぁぁあ…♡

はっ、はぁっ、んっぁっ、はぁぁあ…♡

ボクのかっこいいおちんちんで、

お姉さん、いっぱい犯されちゃってるぅ…♡

んっ、んっ、んっ、んうう…っ♡

っふう、ふう、っはぁ、はぁ…っ♡

あっ、んっぁ、んうぁぁ…っ♡ はぁぁ…っ♡

んふふ……♡」

代「ピストン上手、上手…♡

そのままいっぱい、おちんちんずぶずぶしてね…♡

お嫁さんのお姉さんのこと、いっぱい喜ばせてえ…♡

はぁ…♡

お耳いっぱい舐めて、応援してあげる…♡

背中からおっぱいも、むぎゅむぎゅ押し付けてえ…♡

おちんちん気持ちよくなあれ…♡

おちんちんいっぱいおっきくなあれ、って…♡

んふふふふ……♡」

重「あっ、っはぁっ、んううあっ、はぁぁ…っ♡

っはぁっ、っはぁぁ…っ♡

あつ、あつ、んっあつ、はああ…っ♡

やっあん…♡

ピストンすっごく上手だよお…♡

お姉さんのおまんこ、犯されてるう…♡

ボクのものにされちゃってくう…♡

ガチガチおちんちんで、おまんこのひだひだ、

ぜえんぶ挟られてえ…♡

ボクのおちんちんの形、覚えさせられてる…♡

んっ、あつ、あつ、ああああ…っ♡

あつ、あつ、あつ、あつ、あああああ…っ♡

ああん…♡

好き♡♡ 好き…♡

大好きよお、ボクう…♡」

代「んふふ…♡♡

むちむちのお尻に一生懸命しがみついて、

へこへこ、ずぶずぶ……♡

バックでセックス、すっごくかっこいい…♡

お姉さんのおまんこ、

ボクのおちんちんの先っぽから根元まで…♡

全部で味わって…♡

中の感触全部、確かめちゃってるねえ…♡

おちんちんにしゅっかり覚えさせようねえ…♡

ボクのお嫁さんのおまんこの感触だからねえ…♡

んふふ…♡」

重「んっ…んあ、あん、んっ、あ、ああ、ううっ♡

うん、あん、あんっ、あ、あっ、うん、んっ、んっく、んっふ…♡

はっあん…♡

ほら、ボクう…♡ わかるう…？

また、お姉さんのおまんこの、一番奥…♡

子宮の入り口、おちんちんの先っぽに、

むっちゅうって…♡

ボクのおちんちんお迎えして、ちゅっちゅっちゅう…♡

おちんちんの先っぽ、啜えちゃってるう…♡

あはあ…♡

さっきもここに、いっぱい出してくれたもんね…♡

またたくさん、出したくなってきちゃうよねえ…♡

あんっ、ああんっ♡ あっはあ…♡

代「わかる…？」

今、ボクのおちんちに吸い付いてるところ…♡

子宮っていうのが、どういところか…♡

そこはねえ…♡

赤ちゃんが出来るところなの…♡

ボクのおちんちんのお汁、びゅっびゅ…♡

ってしたらあ…♡

お姉さんたちとボクの赤ちゃん…♡

できちゃうんだよお…♡

んふふふ…♡「♡」

重「あはあ…♡

おちんちんびっくんってした…♡

赤ちゃんデキるって聞いて、びっくりしちゃった？

そうだよお…♡

セックスっていうのはあ、子作りのこと…♡

さっきから、お姉さんたち…♡

赤ちゃん作っちゃってるんだよお…♡

ボクのお父さんとお母さんも、ボクを作るために、

こういうことしたんだよ…♡

だから、ボクもお…♡

お姉さんの子宮に、赤ちゃんデキちゃうおちんちん汁♡

いっぱい出していいからねえ…♡

びゅるびゅるびゅっくん♡

出していいよお…♡」

代「ほうら…♡

出して、奥…♡

子宮にどっぴゅん♡ おちんちんザーメン…♡

大丈夫だよお…♡

お姉さんたちは、ボクのお嫁さんだから…♡

男の子は、お嫁さんになら、赤ちゃん作っていいんだよお…♡

怖くない、怖くない…♡

だから出して♡ 出して、出してえ…♡

おちんちんイクイク♡

ザーメン出る出るう…♡」

重「いっぱい出してえ…♡

お嫁さんおまんこにい…♡

ザーメンびゅっぷう…♡

おちんちんイクイクしてえ…♡

出して、出して、出して、出して…♡

びゅっ、びゅっ、びゅっ、びゅー…っ♡

ああん…♡

出てるう…♡ お姉さんの子宮に、

赤ちゃん汁、びゅるびゅるびゅっるう…♡

いっぱい出てるよお…♡

お腹いっぱいになっちゃう…♡

おまんこぱんぱんになっちゃうよお…♡

ああ、すっごい…♡

出る、出る、まだ出てるう…♡

んふふふふ…♡」

代「はあ…♡

ふふふふふ…♡

いっぱい出たねえ…♡

よしよし、よしよし…♡

子作りのやり方、覚えちゃったね…♡

しっかり覚えておこうね…♡

男の子にとっては、大事なことからねえ…♡

もっと練習もしちゃおっか♡

今度は…こっちのおまんこで…♡

ほら、来て…♡

八代お姉さんのおまんこにも…♡

子作りザーメン、いっぱい、注いで…♡」

重「はあい…♡

今度は八重お姉さんが支えてあげる…♡

あとはさっきといっしょだよ…♡

子作り覚えて、また一つ、大人になったおちんちんで…♡

八代お姉ちゃんのおまんこに、おちんちんずっぶん…♡

ばこばこぱんぱん動かしてえ…♡

中出しびゅーびゅー、しちやおうねえ…♡

ほうら…♡

準備はいい…？

しっかりお尻、しがみついて…♡

へこへこにゅぷにゅぷ、しちやおうねえ…♡

行くわよお…♡

おちんちん、にゅっぷん…♡」

代「あああん…♡

んっ、あっ、やっあん…♡

あっはあ…♡

おちんちん、硬あい…♡

お姉さんの子宮に、赤ちゃん汁注ぎたくって、

仕方ないんだあ…♡

まだ小さいのに…♡ とってもえっちで…♡

とっても素敵…♡

ふふふ…♡

ほら、動いていいよ…♡

お姉さんのお尻に乗っかりながら、ぱんぱんぱんぱん…♡

お嫁さんおまんこ、突いちゃってえ…♡

やぁあん…♡

あんっ♡ あんっ、あっはあん♡

おちんちん、すっごおい…♡

あはぁっ…ああんっ、あんっ、いや、やん♡

んふふふふ…♡」

重「おちんちんずぼずぼ、上手だねえ…♡

セックス体験する度に、どんどん上手くなる…♡

赤ちゃん作るの、とっても上手う…♡

かっこいいよお…♡

お姉さんたち、いっぱい赤ちゃん、

産みたくなっちゃう…♡

だからたくさん、注いであげてねえ…♡

子宮にたくさん、精液、どっぴゅう…♡

んふふ…♡」

代「んあう、あう、あん、あんっ、んあっ、んあうっ…♡

んっ、あんっ♡ あっはあん…♡

おちんちん、すごい…♡

どちゅどちゅっ、ぐちゅぐちゅ…♡

旦那様おちんちんで、おまんこ、掻き回されちゃう…♡

んあっ、あん、んくっ、んうっ…♡

んあ、ああん、あっ、あんっ、んう、んあ、んあっ♡

やっあん…♡

おちんちんいっぱい動かしてえ…♡

どちゅどちゅたくさん、おまんこ♡

気持ちよくしてえ…♡

んふふふふ…♡「

重「ああ…♡

必死におちんちん動かすボク、とってもかわいい…♡

お嫁さんおまんこ気持ちよくしてやるんだあって…♡

かっこいい…♡

素敵…♡

だあい好き…♡

ほら、もっとしてあげて…♡

おまんこいっぱい、突いてあげてねえ…♡

旦那様のかっこいいところ…♡

見せてあげてえ…♡」

代「んっうんっ、あっあん…♡

おちんちん熱うい…♡

あっ、あっ、あっ、あっ…♡

あっはあ…♡

子宮、降りてくるう…♡

ボクのおちんちん、好き好きって…♡

赤ちゃん欲しいよおって♡

降りてきてるう…♡

あっ、ああっ、あっ、はあっ、あんっ、あん、あんっ、やんっ♡

あっ、あっい、んあ、ああん、あっ、あんっ♡

孕ませてえ…♡

ボクの赤ちゃんの素、ここにいっぱい注いでえ…♡

お姉さんにい、ボクの赤ちゃん、産ませてえ…♡

んっふっふっ…♡」

重「ふふふ…♡

おちんちん打ち付ける度に、

精子のたっぷり詰まったタマタマ、

びたんびたんって、お尻にぶつかって…♡

ボクが一生懸命なの、伝わってくる…♡

ピストン上手う…♡

孕ませおちんちん、かっこいい…♡

ほら、ほら、もっと、もっとお…♡

お嫁さん、孕ませろお…♡」

代「あっああん…♡

出ちゃうねえ…♡

精子出ちゃう♡ 孕ませミルク出ちゃう、出ちゃう…♡

おちんちんイクイクしそうな、

わかつちゃう…♡ あはあ…♡

どうぞ、どうぞ…♡

出して、ボクう…♡

お姉さんのおまんこにい、熱々ザーメン…♡

孕ませどっぴゅんしちやおうねえ…♡

おちんちん奥に、ぎゅゝってくっつけて…♡

お姉さんのお尻に必死にしがみついて、

孕め、孕めえ…♡

赤ちゃん産めえ、って…♡

中出ししてえ…♡」

重「ほら、出せ、出せ、出あせ…♡

おちんちんイケイケ♡

おちんちん出せ出せ…♡

孕ませどっぴゅん…♡

子作り射精…♡

美人なお姉さんのこと、孕ませろお…♡

お嫁さんおまんこに、種付け射精…♡

イケ、イケ、イケ、イケえ…♡」

代「あっああああん…♡

あはっ♡ 出てるっ♡

旦那様ザーメンで♡ 孕まされちゃあう…♡

んっ♡ あっ、やっあん、あはあ…♡

いっぱい、出てるう…♡

すっごい…♡

子宮いっぱい…♡

ボクの精子、泳いじゃってるよお…♡

んふふふ…♡」

重「おちんちん気持ちよかったねえ…♡

おちんちん最高だよねえ…♡

まだまだもっと、したいよねえ…♡

ねえ…？　ねえ…っ♡」

代「んふふ…♡

お風呂上がったら、またしようね…♡

明日の朝まで…♡

何度もぴゅっぴゅ、しちゃおうねえ…♡

んふ、んふふふ…♡」

● 第8章

重「ほうら、ボクう…♡

またおちんちん、こっちにちょうだい…♡

お姉さんたちが、いっぱい抜き抜きしてあげるからあ…♡」

代「今度はお口でしてあげる…♡

お姉さんのあったかあいお口でえ…♡

おちんちんいっぱい、ぬっこぬっこって、

お搾りしてあげるう…♡」

重「どうしたの？ ボク…？

お姉さんたちと、もっと遊びたくないの？

ほうら、このお口い…♡

大きな唇と、にゆるにゆるの舌で、

おちんちん舐めしゃぶってあげるのよ…？

絶対気持ちいいって、わかるでしょ…？」

代「もう疲れちゃった…？

おちんちん、したくない…？

あは…♡ そんな嘘、つかなくたっていいのよ…♡

お姉さんたちに遠慮してくれてるのかな？

優しいねえ、ボク…♡

でも、お姉さんたちなら全然平気だからね…♡

だから、ほら、おちんちん…♡」

重「もうイヤだなんて、そんなこと…♡

今更恥ずかしがることなんてないでしょ？

うふふふふ…♡」

代「ほうら…♡

お姉さんたちが、いっぱい気持ちよくしてあげるから…♡

ボクはそこにいなさいね…♡」

重「あはあ…♡

ボクのこと、捕まえちゃったあ…♡」

代「前と後ろで、ぎゅうって抱きしめられちゃってえ…♡

動けないねえ…♡」

重「んふふ…♡

ほら、ボクのおちんちん、こんなに大きくなってるわよ…♡

もうしたくないなんて、嘘ばかり…♡」

代「お姉さんたちが持ってきたお菓子、

いっぱい食べたもんね…♡

あれのおかげで、おちんちん、

ずうっとずーっと、大きいままだからねえ…♡」

重「だからいくらでもお…♡

おちんちんぴゅっぴゅできるからねえ…♡

お姉さんのお口の中に、

どっぷんどっぷん…♡

お漏らししようねえ…♡

んうあゝ…♡

っはあ…♡

ぷっはあ♡

どう？ ボク…♡

お姉さんのお口い…♡

おちんちんじゅるじゅるうって♡

いっぱい舐めて、すすられて、

おちんちん、吸い取られるのはあ…♡」

代「こっちも、ほうら…♡

ボクのかわいいお尻…♡

さっきお風呂で触ってあげた時、

くすぐったそうにしたた、お尻の穴あ…♡

お姉さんの舌でえ…♡

ぷはあ…♡

じゅるるるうって♡

いっぱい舐めてあげるう…♡

あはあ…♡

ボクのお尻の穴、美味し…♡」

重「どんどん行くわよ…♡

いっぱいいっぱい、

気持ちよくしてあげるからね…♡」

代「いつでもザーメン、どっぴゅんしていいからね…♡

熱々ザー汁、たっぷり出しちゃおうねえ…♡」

重「っはぁ…♡

おちんちん、いっぱいびくびくうって…♡

いっぱい感じてくれてるのね…♡」

代「お尻の穴もひくひくうって…♡

かわいく動いてる…♡

喜んでの、わかつちゃう…♡」

重「あはぁ…♡

おちんちん、お姉さんのお口の中で

暴れてる…♡

気持ちよすぎてびくんびくんって♡」

代「かわいい喘ぎ声もいっぱい出していいからねえ…♡

お姉さんたちに、おちんちんとお尻、

いっぱいいいじめられて…♡

あんあんいい声、出しちゃおうねえ…♡」

重「っはぁ…♡

ほうら…♡

おちんちんもっと強くう…♡

お姉さんの喉の奥まで、

飲み込んであげる…♡」

代「ボクのかわいいお尻も…♡

もっといっぱい気持ちよくなるように…♡

優しく…♡

お尻ぺんぺん♡ してあげるねえ…♡」

重「あっはあ…♡

ほら、喉奥で締め付けられるの、

気持ちいいでしょ…♡

いいのよ、お射精しちゃっても…♡

おちんちんじゅるじゅる…♡

我慢できないんでしょう?」

代「いつでも出していいからねえ…♡

八重お姉さんのお口に、

あつつあつのどろどろおちんちんミルク…♡

たっぷり吐き出しちゃってねえ…♡」

重「ほら、出せ、出せ、出あせ…♡」

代「おちんちん出しちゃえ♡ 出しちゃえ…♡」

重「んっふうふううん…:♡

んっふうっ、くううううっ…:♡

うっ、んうっ、んっうんっ、っふううう…:♡

んっ、んっ、んっ、んうううう…:♡「♡」

重「んっふう…:♡

ふっ、んっ、んっふう…:♡

んっぐ…:♡

んぎゅっ、んぎゅっ♡ んぎゅん…:♡

んぎゅん…:♡ んぎゅん…:♡

ぷへあ…:♡

はっ、ふっ、はっ、はあああ…:♡

ふううう…:♡

あっはあ…:♡ ボクの濃厚精液い…:♡

ぷるっぷるで、とってもおいしい…:♡

いっぱい出せてえらいねえ…:♡

お姉さんにザーメンプレゼント、

ありがとうねえ…:♡ んふふ…:♡「♡」

代「ほうら、ボクう…♡

次は八代お姉ちゃんにも、

おちんちん汁、飲ませてちょうだいねえ…♡」

重「ふふふ…♡

お尻、まだひくひくしてる…♡

ぴゅっぴゅの余韻、残っちゃってるんだあ…♡」

代「おちんちんも、ほらあ…♡

まだびくびくして…♡

残り汁、とろおって…♡

ああ、もったいなあい…♡」

重「もうだめ？

もうおちんちん、イキたくない？

んふふふふ…♡

それこそ、だめ…♡」

代「ボクはお姉さんたちの旦那様でしょお…？

だったらあ、お嫁さんの願いは、

ちゃあんと聞いてくれないとお…♡」

重「ほら、行くわよ…♡

お尻とおちんちん、たあっぷり、

感じさせてあげる…♡」

代「金玉ザーメン…♡

たくさん、たくさん、たつくさぁん…♡

搾り尽くしてあげる…♡」

重「あっはぁ…♡

お尻震えて…♡ お尻の穴♡

きゅうきゅうきゅうって♡

お姉さんのベロ、締め付けてくる…♡

かわいいボクのケツ穴ぁ…♡

とっても美味しいわぁ…♡」

代「おちんちんも、奥からどんどん♡

お漏らし汁、溢れてくる…♡

残り汁と我慢汁、いっぱい出てきて…♡

もうお射精してるみたいに、とっぷとぷう…♡」

重「あっはぁ…♡

悲鳴みたいな喘ぎ声も、とっても素敵…♡

お嫁さんのこと、そんなに喜ばせてくれるなんて…♡」

代「最高の旦那様だよ、ボ・ク…っ♡

だあい好き…♡

愛してるう…♡」

重「おちんちんもびくびくして…♡

金玉まで、ぶるんぶるんって…♡

精子いっぱい詰まった、かわいい金玉…♡」

代「おしゃぶりしながら、ここも揉み揉み♡

してあげるう…♡

これでもおっと♡ 精液濃くなるよねえ…♡

んふふ…♡」

重「また出ちゃう？

うん、イッちやうんだねえ…♡

いいよお、おちんちんイクイクう…♡

イケイケ、イッケえ…♡」

代「おちんちんと金玉搾られて、

あつあつザーメンミルク、

どっぷり出しちゃえ…♡

イケ、イケ、イケ、イッケえ…♡」

重「おちんちんどっぴゅん…♡

イッケえ…♡」

代「おちんちんどっぴゅん…♡

イッケえ…♡」

代「んううおおおお…♡

んううおおっ、んううううう…♡

んっ、ふっ、んっふうっ、ふううううう…♡

ふっ、ぐっ、ふっくう…♡」

代「んっへあ…♡

んっ、ふっ、んっふう、ふうううう…♡

んっうん…♡

んぎゅっ♡ んぎゅゅっ♡ んぎゅゅっ♡

んぎゅきゅん…♡ んっぐ、いっく…♡

っはあ…♡

あはあ…♡ ボクの精液、とろっとろお…♡

味も香りも喉越しも、最高だよお…♡」

重「さあさあ、さあ…♡

次はどうやって、おちんちんイキたい？

お姉さんたちに、お任せだよお…♡」

代「イヤだって言っても、無理矢理だっておちんちん、

イクイクさせちゃうからねえ…♡

朝まで何度も…♡

おちんちん、びゅっびゅう…♡

んふふふふ…♡」

● 第9章

重「ほらほら…♡

動かないの…♡♡

お姉さんに迷惑かけないで…♡♡

今からまた、ボクのおちんちん…♡

お姉さんがおまんこで食べちゃうんだからあ…♡」

代「ここでぎゅ…ってボクのこと、

抱きしめてえ…♡

動けなくしてあげるからねえ…♡

大人しく、お姉さんたちとおまんこしようねえ…♡」

重「おちんちん気持ちよくなれるんだよ？

好きだったでしょ？

おちんちんイクイク…♡

お姉さんのおまんこで、おちんちんどっぴゅっ…♡

さあ、行くわよお…♡

ボクのおちんちん…♡

おまんこの中にい…♡

あっはあん…♡

ほうら、入っちゃったあ…♡

おちんちんずぶずぶうって…♡

中に、ぜーんぶ…♡

んふふ…♡」

代「おちんちん気持ちいいでしょ？」

いくらボクが、いやいやって言っても…♡

おちんちん、おまんこに包まれちゃったら、

逆らえないんだよお…♡

おちんちんどちゅどちゅ、犯されちゃったら…♡

おちんちんお漏らし、我慢できないの…♡」

重「だから大人しく…♡

お姉さんたちに、逆レイプ…♡

されちゃってねえ…♡

行くわよお…♡

おちんちん、どちゅどちゅ…♡

ほらっ、ほらっ、ほうらあっ♡

あっはあ…♡

どう？ おちんちん、ずっぶずぶ…♡

お姉さんのおまんこ気持ちいいね♡

にゆるにゆるひだひだに、おちんちん包まれて、

ぞくぞくしちゃうねえ♡

んふふふ…♡「

代「あはあ…♡

無理矢理感じさせられてるボクのお顔…♡

とってもかわいい…♡

そのお顔、だあい好き…♡♡

っはあ…♡

ぺろぺろ、舐めてあげたくなっちゃうぐらい…♡

んふふ…♡

気持ちいいでしょう？

おちんちんぺろぺろしてあげたみたいに、

お顔舐められるの…♡

気持ちいいねえ…♡」

重「あっはあ…♡

おちんちん、お姉さんの中でもうびんっぴんに…♡

んふふふ…♡

きつつきつのおまんこで、ぐっちゅぐちゅに犯されて、

もうイクイクしちゃいそう？

あはあ…♡

せっかくかっこいいおちんちんになれたのに、

あつという間に元のおちんちんに戻っちゃったねえ♡」

代「今までがんばってたのにねえ…♡

大人のおちんちんだったのに、もう、

よわよわなおちんちん…♡

お姉さんのおまんこに、

あつという間に負けちゃうおちんちんに、

なっちゃったねえ…♡」

重「んふふ…♡

違うよねえ…♡

そうじゃないよねえ…♡

ボクのおちんちんなんて、元々お…♡

ぜーんぜん、強くも、かつこよくもなかったんだよお…♡

お姉さんたちにずうっと、無理矢理お漏らし、

させられてるだけえ…♡

小さくて情けない、ザコザコおちんちんだったんだよお…♡」

代「ほうら…♡

だから、さっきまで同じように、

お姉さんたちのおまんこに負けて、おちんちんイッちゃえ…♡

どろどろザーメン、中に出しちゃえ…♡」

重「お姉さんたちは、ボクの精液搾り取るために、

ボクのお家に来たんだからねえ…♡

さっさと出させ…♡ 出せ、出せ、出させ…♡

ほら、イケ、イケっ、出せ出せ出せ出せっ♡

んっあああん…♡

あっはあ…♡ 出てるっ、出てるう…♡

ボクの精液…♡

んっうん…♡　すごい勢い…♡

子宮に、びちゃびちゃあ…♡　んっはあ…♡

はっあああ…♡

んふ、んふふふ…♡

だけど、まだまだあ…♡

お姉さんのおまんこはあ、満足してないんだからねえ…♡

もっとおまんこ、ぎゅうぎゅう締めて…っ♡

ばちゅばちゅ犯してえ…♡

精液搾っちゃうからねえ…♡

んひひ…っ♡」

代「あは…♡　イッたばかりなのに、

おまんこピストン止めてもらえなくて、かわいそお…♡

でも、おちんちん気持ちいいもうねえ♡

ぴゅっぴゅしたばかりのおちんちん♡

どちゅどちゅ犯されるの、すごいよねえ…♡

ほうら…♡

今度はお耳もお…♡

いっぱい犯してあげちゃあう…♡♡

んふふふふ…っ♡」

重「お耳とおちんちん、いっしょにしてみようの、好きだったもんねえ…♡

おかげでおちんちん、さっきお射精した時より、硬あくなってるう…♡

それならあ…♡

お口の中まで犯されたら、どうなるかなあ…？

お口とお耳とおちんちん…♡

ボクの大好きなところ、ぜーんぶ…♡

一気にレイプしちゃうからあ…♡

負け負けザーメン…♡

いっぱい出しちゃえ…っ♡」

重「あっはあ…♡

気持ちよすぎて、お馬鹿さんの顔になってるう…♡

かわいいわねえ…♡ ボクう…♡」

代「レイプされまくってえ…♡

怖いのに、気持ちよくされまくっちゃってえ…♡

おちんちんびゅーびゅー、

お漏らししちゃおうねえ…♡」

重「お姉さんの子宮はあ、何度でも、

ボクのおちんちん汁求めて、子宮でぐりぐり、

先っぽいじめちゃうからねえ…♡

おちんちに吸い付いてえ…♡

おまんこの中から、ザーメン搾りい…♡

ほうら、イケ、イケ、イッちゃえ♡

ザコちんちん…♡

敗北お漏らし…♡

強制射精い…♡」

代「金玉ザー汁いっぱい出そうねえ…♡

おちんちん杭打ちピストンで搾られて、

金玉汁、搾り抜かれちゃうねえ…♡

ほうら、イケ、イケ、イケ、イケええ…♡」

重「出せ、出せ、出せ、出せ、出あせ…♡」

代「イケイケ、イケイケ、イケイケ、イッケえ…♡」

んふふふふ…♡

おちんちん、来たあ…♡」

重「ふふふ…♡

おちんちんもう無理？

もう出ない？ タマタマ空っぽ？

ううん、違うよ…♡

出るかどうかじゃあなくってえ…♡

無理矢理にだって、搾り出すの…♡

ボクのおちんちんからでる、ほかほかミルク…♡

お姉さんたちが、ぜーんぶね…♡

一滴残らず、全部…♡

搾り取るのお…♡

っはあ…♡

だからボクは、黙っておちんちん、おっ立たせてえ…♡

おちんちんぴゅっぴゅだけ…し・ろ♡」

代「ほうらあ…♡

おちんちん、ばっちゅばちゅ…♡

杭打ちピストンでまたあ…♡

おちんちん搾りだよお…♡ あはあ…♡

そうれ♡ そうれ…っ♡

おっきいお尻で、ボクの身体っ、潰すみたいにい…♡

いっぱいおちんちん、搾っちゃうう…♡

気持ちいいよねえ…♡

どんなに嫌がったって、おちんちん、

気持ちよくなっちゃうんだよお…♡

お姉さんたちが、そういう風に、

してあげてるからねえ…♡

あはあ…♡」

重「お姉さんたちが側にいる限りい…♡

ボクのおちんちんは何度だって大きくなるしい…♡

何回だって、お漏らししちゃうの…♡

もうわかってるでしょお…♡

普通の男の子は、「回とか2回、ぴゅっぴゅしたら、

それでおしまい…っ♡

だけどボクは、お姉さんたちといっしょにいるから…♡

何度でも、びゅっびゅっびゅっ…っ♡

お姉さんたちに、お射精させられちゃうのお…♡
んふふ…♡」

代「ほうら…♡

もうおちんちん、熱くなってきた…♡

すっからかんのはずの金玉から、

どろどろ熱いの、昇ってきてるねえ…♡

いいよお♡ 出しちゃえ…♡

出しくなくっても搾り取っちゃうんだからあ♡

ボクも諦めて、お射精しちゃえ…♡

苦しくないでしょ？ 痛くないでしょ？

怖いぐらい、気持ちいいんでしょう？

だったら、ほらあ…♡

出しちゃえ、出しちゃえ…♡

イケイケイケイケ、出せ、出せえ…♡」

重「お顔もおちんちんも、

お姉さんたちにぐっちょぐちょにされて、

おちんちんお漏らししちゃおうねえ…♡

ボクの意志なんて関係ないんだよお…♡

お姉さんたちがイカせるって思ったら、

イクまでやめないんだからぁ…♡

だから、ほうら…♡

おちんちんイクイクしょ…♡

好きだったイクイク♡ おちんちんどっぴゅん♡

あんなに楽しそうだったんだからぁ…♡

また、いっぱい出ぁせ…♡

ほら、出せ、出せ、出せえ…♡」

代「イケ♡ イケ♡ イケ♡ イケ♡

お姉さんのおまんこに、びゅるるん、しちやえ…♡

おまんこ締めて♡ おちんちん締め付けてえ…♡

逆らうなんてできない♡

おちんちん無理♡

イクイク、イックう…って…♡

強制お射精…♡ させちやうからぁ…♡

イケ、イケ、イケイケイケ…っ♡

出っせえ…♡

くうっぁぁぁ…♡

あはぁ…♡ 出てるっ♡ お射精い…♡

おまんこに、熱いのお…♡

くううううん…♡

んっ、うっ、はっぁぁぁ…♡

ぁぁぁっ、んっぁっ、んっう、はっぁ…♡

ほうら…♡

まだまだぁ…♡

ボクの小さな身体…♡ おちんちん…♡

もっといっぱい、犯しちゃうからねえ…♡

ほらほらほらぁ…♡

ぁっはぁ…♡

もっと強く、おちんちん、搾ってあげちゃぁう…♡

んっ、んっ、んっ、んうん…♡

気持ちいいねえ…♡

無理矢理犯されてるのに、気持ちよすぎて、

ひいひい言っちゃってえ…♡

んふふ…♡ いいお顔お…♡

っはぁ…♡

甘々べろちゅー…♡

してあげたくなっちゃう…♡」

重「こっちももっと、気持ちよくしてあげるっ…♡

ほうら…♡ 耳レイプ…♡

これでもおっと…♡

おちんちん、ガチガチにい…♡」

代「あっはあ…♡

へろへろだねえ、ボク…♡

もう何でもいいから早く終わって…♡

諦めたようなお顔…♡

でも、そういうお顔も、お姉さんは、大好きなの…♡

いっぱいおまんこ締め付けて…♡

もっといい顔に、してあげちゃうからあ…♡

ほうらあ…♡

おまんこっ、ばちゅばちゅっ♡

きつつきつに締め上げてえ…♡

おちんちん、いじめちゃあう…♡

んふふ♡ んふふ…♡

ほらねえ…っ♡

お顔、また気持ちよさそうにとろけてきたあ…♡

喘ぎ声、いっぱい出てきて…♡

幸せそう…っ♡」

重「いいんだよお…♡

もっと幸せなっちゃおうねえ…♡

お姉さんにおちんちん搾られるの、

好きだったでしょお…？

だったあ、無理矢理だとか、もう出ないとか、

関係ないよねえ…♡

おちんちんイクイク、だあい好き…♡

おちんちんどっぴゅん♡ 好きだからあ…♡

いっぱい、いっぱい…♡

お射精しろお…♡」

代「そらっ、そらっ、イケイケっ♡

出せえ…♡

またお姉さんの中あ…♡

熱々おちんちん汁っ、出すのお…♡」

重「大きいお姉さんに、ぶっ潰されそうなぐらい、

犯されまくって…♡

おちんちんびゅるびゅるう…♡

出せ出せ、イケイケ…♡

ザーメン搾られて、おちんちん、イッケえ…♡」

代「ほら出ちゃう♡ 出ちゃうねえ♡

おちんちんビクビクだねえ…♡

漏らせ♡ 吐き出せ♡

おちんちんイッケえ…♡

お姉さんにい…♡

ザー汁よこせえ…♡

出せ、出せ、出せ、出っせええ…♡」

重「イケイケイケイケっ♡

イケイケイケイケイケイケイケえっ♡」

重「チンポ汁、ぶちまけろっ♡」

代「チンポ汁、ぶちまけろっ♡」

代「びゅっびゅっびゅう…♡

どくどくどくどくっ、どっぶううう…♡

あはあ…♡

出ちゃったあ…♡

出したくないはずの精液…♡

たあっぷり出てるう…♡

お姉さんの子宮に、先っぽ押し付けられて…♡

どっぼどぼお…♡

んふふ…♡」

重「すごいねえ、ボクう…♡

もう無理なんて言っておいて…♡

まだこんな…♡

さすが、お姉さんたちの旦那様あ…♡

んふふ…♡」

代「じゃあ、まだ、できるってことだね…♡

もっともっと、お姉さんたちと…♡」

重「だって、朝まではまだまだ…♡

たあっぷり、時間…♡

あるもんねえ…♡

んふふふふ…♡「

● 第10章

重「はっえあゝ…♡」

代「んっああゝ…♡」

重「んふふふ…♡」

どうしたの、ボク…？

そんな泣きそうな顔、しちゃってえ…♡」

代「そうだよお…？

そんなにお姉さんたちのことが怖いの？

違うよねえ…？

怖くなんか、ないよねえ…♡」

重「だってえ、ボク、好きだもんねえ…♡

おっきいお姉さんたちに、むっぎゅうって挟まれるの…♡

お顔よりおっきいおっぱいでえ、

身体全部、包まれちゃうの…♡

気持ちいいんだもんねえ…♡」

代「ドスケベむっちむちのおっぱい…♡

ふっかふかで、むにゅむにゅでえ…♡

気持ちいいもんねえ…♡」

重「ほうら…♡

おちんちんだってこおんなに…♡

勃起しちゃってる…♡

精子いっぱい出したいよおって…♡

びくびくしてるう…♡」

代「おちんちんもお、金玉もお…♡

まだまだ物足りなさそうだからあ…♡

いっぱいしこしこしてあげるう…♡」

重「しこしこ、しこしこお…♡

ねえ？ 気持ちいいでしょお…♡

おちんちんまだまだ、楽しめちゃう…♡」

代「ボクがどんなにイヤだって思っても…♡

おちんちんの方が、勝手に感じちゃう…♡

いくらでも気持ちよくなっちゃうからねえ…♡

んふふ…♡」

重「ほうら、ボク…♡

お姉さんと、ちゅーしましょお…♡

ボクの大好きなあ、お姉さんの涎…♡

飲ませてあげるからねえ…♡

あゝ…♡

っはあ…♡

ごくごく飲んでねえ…♡

そしたらまた、もっとおちんちん、

感じちゃうからねえ…♡」

代「こっちにもあるよお…♡

ほうら、べろちゅー…♡

っはあ…♡

お姉さんたちの涎…♡

お口の中でミックスしてえ、ごくくんしましょねえ…♡」

重「ふふふ…♡♡

もう出ない、もう出ないよおって…♡♡

何度も何度も言うけどお…♡♡

出る出ないは関係ないって、

もう何度も言ってるでしょ？ ふふ…♡♡」

代「出ないんだとしても、出すまでするしい…♡♡

出るようになるまで、お姉さんたちがいっぱい、

いいことしてあげるんだからね…♡♡」

重「そんなにイヤなの？

お姉さんたちと、えっちなこと、するの…♡♡

こんなに楽しいのに…♡♡

ふふふ…♡♡」

代「お友達の子たちはこんなこと、まだしたことないんだよ？

ボクだけが、こういうえっちなこと、

できちゃうんだよ…♡♡」

重「お姉さんたちに、おちんちんと金玉、

気持ちよおくところかしてもらうのも…♡♡」

代「お姉さんたちのおっぱい、むにゅむにゅ揉み揉みするのもお…♡♡」

重「お口でじゅるじゅるしゃぶられるのも…♡」

代「もちろんおまんこも…♡

こんな気持ちのいいお射精…♡

精通もまだの子だっているんだろぅねえ…♡」

重「なのにボクは、こんなにいっぱい…♡

びゅるびゅる、びゅっくん…♡

気持ちいいお射精、覚えちゃった…♡」

代「金玉に集まるほっかほかのザーメン…♡

抜き抜きしてもらうの、知っちゃった…♡

もう戻れないんだよ…♡」

重「お姉さんたちのいない生活には戻れない…♡

お姉さんたちが、離してあげなあい…♡」

代「その代わりボクは、ずうっと気持ちいいよ…♡

おちんちんずうっと、気持ちいいまま…♡

最高でしょ…？

いつでもおちんちん、

お姉さんたちに抜き抜きしてもらえるんだよ…？」

重「だから、ほぅら…♡

素直になって…♡

お姉さんたちと、楽しんじゃお…♡」

代「おちんちん気持ちよくしてもらおうことだけ…♡

集中しようねえ…♡」

重「ほらほら、ほうら…♡

しこしこしこ…♡

おちんちん気持ちいい、気持ちいい…♡」

代「お姉さんたちに、おちんちんと金玉、

揉みくちやにされるの、気持ちいいねえ…♡」

重「我慢汁がとろっとろお…♡

お姉さんたちの指、こんなに汚してえ…♡♡」

代「出ちやうねえ…♡

おちんちんイクイクしちやうねえ…♡

もう何度目かなあ…♡

覚えてられなくなるまで出しちゃったもんねえ…♡」

重「まだ出せるよねえ…♡

いっぱい出ちやうよねえ…♡

ほうら、イケイケ、イッケえ…♡」

代「おちんちん出あせ…♡

どっぴゅん出せ出せ…♡

おちんちんイケ、おちんちんイケえ…♡」

重「おちんちんザーメン、どっぴゅんしろお…♡」

代「おちんちんザーメン、どっぴゅんしろお…♡」

重「びゅっびゅっびゅっびゅっびゅっびゅっびゅっ…♡

どっぶっ…♡

びゅるるっ…♡」

代「濃いっのいっぱい出ちゃったねえ…♡

泣きそうな顔で、気持ちよさそうに…♡

ぶっぴゅっぴゅっ…♡」

重「ねえ…？

まだまだ出るでしょお…？

いくらでも出せちゃう…♡

いくらでも、搾ってあげちゃう…♡」

重「まだまだ止めてあげないよ…？

ボクがわかってくれるまでえ…♡

ずうっとしこしこ…♡」

代「お姉さん、だあい好きって…♡

もう一度、お姉さんたちのこと、

お嫁さんにするって言うてくれるまで…♡

抜き抜きし続けちゃうからね…♡」

重「あはあ…♡

ひどいなあ…♡

そんなにイヤイヤしなくったって…♡

でも、さっきも同じこと、言ったはずだよ…？」

代「そういうイヤイヤする子をお…♡

無理矢理にでも、お姉さん好き好きって風に

しちゃうのも…♡

お姉さんたちは、だあい好きなの…♡」

重「だから、そんな顔したって無う駄だ…♡

意味、ないんだってばあ…♡」

代「だからもう、ボクは、お姉さんたちを

受け入れるしかないの…♡

だから早く…♡

お姉さんたちのこと…♡

好きって言ってる…♡」

重「ふふふ…♡

んうあゝ…♡

っはあ…♡

お姉さんたちの涎…♡

すごく甘いでしょ…？

これだけでも、おちんちんイクイク♡

したくなっちゃうぐらい…♡」

代「涎だけじゃあないの…♡

おまんこのお汁だって、なんだって…♡

お姉さんが吐く息だって、全部甘い…♡

おちんちに響く、素敵なお汁…♡

それをさっきから、いっぱい顔中、

身体中で浴びてるから…♡

おちんちは元気になりっぱなし…♡」

重「お姉さんたちがいなくなったら、

もう、味わえないよ…？

本当にいいの…？」

代「そんなにお姉さんたちのこと、

怖くなっちゃったんだあ…♡

ふうん…♡

ふふふふふ…♡」

重「いいよ…♡

なら…これで終わりにしてあげる…♡

もうおちんちん、するの、やめてあげる…♡」

代「そんなに嫌がるんなら…ね♡

仕方ないよねえ…♡

お姉さんたち、ボクとえっちなこと、

いっぱいしたかっただけだから…♡」

重「だから…これでもう…♡」

代「これでもう、おちんちんは、

おしまい…♡」

重「なあんて…♡」

代「ウ・ソ…っ♡」

重「ほらほらほらっ♡

おちんちん、ごしごしごしっ♡

またイカセちゃうからねえ…っ♡」

代「ボクのこと、もう一生、離さないからね…っ♡

ずうっとずうっと、ボクのおちんちは、

お姉さんたちのものお…♡」

重「だからほらっ、おちんちん、イケ…っ♡

お姉さんたちにぐっちょぐちょに犯されて、

ザーメン漏らせ…っ♡」

代「情けないお漏らし…っ♡

ザーメンしーしー、しちゃいなさい…♡

イケっ♡ 出せっ♡ イケっ♡ 出せえ…♡」

重「おちんちんイケっ♡

ザーメンぶちまけろっ♡

金玉っ、どくどく…♡」

代「くっさいお漏らし汁っ♡

どぶどぶ吐き出せえ…♡」

重「ほうら…♡♡

出せ出せっ♡ もっと出せえ…♡

いっぱい出せえ…♡」

代「しこしこ止めないからねえ…♡

出しながら搾ってあげるから…♡

おちんちんもっと、イケ、イケ、イッケえ…♡」

重「おちんちんびゅーびゅー♡

おちんちん、びゅぷぷう…♡」

代「ぶっびゅっ…♡ びゅるるっ…♡

噴水みたいにおちんちんお射精い…♡」

重「あは、ボク…♡

おねむしちゃうの？

そんなのダメよお…♡」

代「こんなところで寝たらもったないよお？

まだまだ楽しめるのに…♡」

重「ほうら、ボク…♡

おちんちんまだまだ、こんなに硬あい…♡」

代「まだまだ夜は長いもんねえ…♡

もっともっと、もっともっともおっと…♡

お姉さんたちといっしょにい…♡」

重「遊ぼうねえ…♡」

代「遊ぼうねえ…♡」

重「あははっ♡ あははははっ♡

[illegible]

代「あははっ♡ あははははっ♡

[illegible]

● 第11章

母「おい？」

もう寝ちやつてるの？

お母さんよ。起きて？

早めに用事が終わって、帰ってきちゃったの。

鍵向こうに忘れてきちゃったから、

玄関、開けて

ねえ？

聞こえてる？

早くして？」

重「ばあ♡

あっはあ…♡

はあい、八重お姉さんよ♡

元気にしてた？ うふふ…♡」

代「はあい、ボ・ク…♡

八代お姉さんも、こっちにいるわよ♡

しっかり戸締まりできててえらいねえ♡

よしよし、よしよし…♡

でも…つくまゝえた♡」

重「あは♡

ここは2階のはずなのに、

お姉さんのお顔が見えちゃってるっていうのが不思議？

でも、知ってるでしょ？

お姉さんとっても大きいから…♡

このぐらいなら届いちゃうの♡」

代「ふふふ…♡

朝起きたらお姉さんたちがいなくって、

さみしかったでしょ？

でもね、お姉さんたちが、ボクのこと、

放っておくなんてするわけないでしょ？

だからまた来てあげたの♡

嬉しいよねえ♡ ふふふ…♡」

重「ほうら…♡

おズボン脱ぎ脱ぎしましょうねえ…♡

お姉さんたちに、またあ…♡

いっっぱいおちんちん、よしよししてもらおうねえ…♡」

代「はいはい、動かない…♡

おズボン脱ぎ脱ぎしてえ…♡ おちんちん、出すの♡

あは…♡ ほうら、勃起してる♡

お姉さんに、してほしいんだねえ…♡」

重「違う？ あは♡

それじゃあなんで、勃起しちゃってるの？

ふふふ…♡

言ったでしょ？ ボクがどう思ってるのかなんで、

関係ないの…♡

お姉さんたちが近くにいただけで、ボクのおちんちんは、

こうなっちゃうの…♡

だから、ほうら…♡

ボクのおちんちん、お口の中に…♡

あゝ…んっ♡

っはあ…♡

おしゃぶりできちゃうの…♡

んふふ…♡」

代「こっちも行くよ？」

ボクのお耳、またあ…♡

べろべろ、耳舐めえ…♡

うしろからぎゅゝって抱きしめて、

逃げられなくしちゃうから…♡

おちんちんいっぱい、気持ちよくなろうねえ…♡

ほうらあ…♡」

重「あはあ…♡

おちんちん気持ちいいねえ♡

今日一日、精液たっぷり溜め込んだもんねえ♡

金玉ぱんっぱんになっちゃって、

おちんちん敏感で、

苦しかったねえ…♡」

代「でも、おかげで濃厚ザーメン、

溜まってるからあ…♡

またたくさん、気持ちよおくぴゅっぴゅ♡

できちゃうねえ…♡

んふふふふ…♡」

重「っはあ…♡

あは、金玉丸々してて、かぁわいい…♡

こっちもしゃぶってあげましょうか？

あゝ…♡

っはあ…♡

んふふ、金玉お口の中で、

ころころゝって♡ んふふ…♡」

代「それならこっちも、

今度はお耳じゃなくってえ♡

甘ぁいべろちゅー…♡

お姉さんとちゅっちゅして、

精液もつと濃くしちゃおうねえ…♡

んゝ…♡

っはぁ…♡」

重「んふふ…♡

あんなに怖がってたのに、

おちんちんじゅるじゅるしてあげたら、

もうお顔、とろけちゃって…♡

本当はお姉さんたちと、えっちなこと、

したかったんでしょ？」

代「家中に鍵をかけて、お姉さんたち、

入れないようにしてたくせに…♡

でも、素直になれない男の子は、

お姉さんたち、だぁい好き…♡

いっぱいよしよし、してあげちゃう…♡」

重「ふふ…♡

でも、本当はボクも気付いてたんでしょ？

こんな夜に、帰ってくるはずのないお母さんの声が、

窓の外からするなんて…♡

おかしいもんねえ…♡」

代「でも、気をつけないとだよ…？

今日はお姉さんたちだったからよかったけどお…♡

もしかしたら、もっと怖い人たちが、

入ってくるかもしれないんだからね…♡」

重「お母さんの言いつけ守って、

戸締まりはちゃんとするんだよ？」

代「お姉さんたちの、お約束だよ…？」

重「わかったあ？

わかったんなら、そろそろびゅーって、しちやおつかあ…♡

お姉さんたちにおちんちんとかされて、

ザーメンどっぴゅん…♡」

代「お昼の間に溜め込んだ精子くんたちい…♡

お姉さんのお口に、たあっぷりお漏らししちやおうねえ…♡

濃いのにっぱい出して、

金玉すっきりしちやおうねえ…♡」

重「ほら、出して、出して♡

いっぱい出してえ…♡

ボクのお漏らしどっぴゅん…♡

お姉さんのお口に…♡」

代「あっつい…♡

たっくさぁん…♡

「くぐくぐしてもらおうねえ…♡」

重「んっうううん…♡ んっうう♡

んっく♡ んっううっ、 んっふう…♡

んっ、んっ、んっ、んっ♡

重「んっふう…♡

んっうん、ふううう…♡

んっぐ…♡

んっぐん…♡ んっぎゅ、ぎゅ♡

ぎゅん…♡

ぷへあ…♡

あはあ…♡ ポクのおちんちんミルク、

おいっしい…♡

ふふふ…♡

代「あは♡ どうしたの？

ふふ…♡ いきなり八重お姉さんが、

お耳の近くに来てて、びっくりしちゃった？

そんなこと…♡

八代お姉さんにだって、出来るのよ？

ふふふ…♡

ほら、今度はこっちのお口に…♡

ザーメンどっぴゅんしちゃおうねえ…♡」

重「お耳もまた…♡

いっぱいべろべろ、犯しちゃうから…♡

おちんちん汁…♡

またびゅるびゅるしちゃおうねえ…♡」

代「あっはぁ…♡

イキたておちんちん、敏感だねえ♡

出したばっかりなのに、ぐぶぐぶ喉奥で犯されて、

気持ちよすぎちゃうねえ…♡」

重「でも、イキたておちんちんしてもらうの、

ボク、大好きだもんねえ…♡

お姉さんにいっっぱい♡

しゃぶってもらおうねえ…♡」

代「あは♡

敏感おちんちんいやなの？

もう、仕方ないなあ…♡

それじゃあ、おちんちん落ち着くまで…♡

また金玉♡

おしゃぶりしてあげる♡」

重「なら、こっちはべろちゅーだねえ…♡

またお姉さんの涎、いっぱい飲んで…♡

おちんちん元気元気にしちゃおうねえ…♡

ほうら…♡」

重「っはあ…♡

ボクの小さいお口とベロ、

じゅるじゅる啜ってあげるの、楽しいわあ…♡

いっぱいキス、しましうねえ…♡」

代「金玉も、お口の中でぶるぶるしちゃって…♡

ああ、かわいい…♡

ボクのおちんちん、金玉までゼーんぶ…♡

だあい好きい…♡」

重「あはあ…♡

甘あい喘ぎ声…♡ 聞こえてきちゃった…♡

べろちゅーしてもらいながら、

金玉おしゃぶり…♡

幸せになっちゃったんだあ…♡

それならもう、おちんちん、もどってもよさそうね…♡」

代「ふふ…♡

またいっぱい、喉奥おちんちんレイプしてあげるから…♡

ザーメンどっぷり、お漏らししようね…♡

ほうらあ…♡」

重「んふふ…♡

ね？ 素直になった方がいいでしょ？

お姉さんたち、怖くないの…♡

だってお姉さんたちはあ、ボクのおちんちん、

気持ちよくしてあげただけだからあ…♡」

代「それだけなんだからあ…♡

怖がらないで、お姉さんたちにいっっぱい、

おちんちんぴゅっぴゅ、させてもらおうねえ…♡」

重「金玉空っぽになったら、

またいっぱい精子増やしてあげるから…♡」

代「おちんちんしょんぼりしちゃっても、

またすぐむくむくうってさせてあげるからあ…♡」

重「もっともおっと…♡

お姉さんたちと、楽しいおちんちん遊ぼ…♡」

代「しまくっちゃおうねえ…♡

余計なことなんて、全部忘れてえ…♡」

重「ほら、出ちゃうね♡ 出ちゃうねえ♡

どうぞお、おちんちんイッてえ…♡」

代「おちんちんぴゅっぴゅだよお…♡

どっぶんしちゃおうねえ…♡」

重「八代お姉さんがあ、濃いのいっぱい、

ごっくんしてあげるからねえ…♡

おしっこみたいに、たくさん出しちゃってねえ…♡」

代「おちんちんいっぱい、どくどくどくうって…♡

お漏らしするのよお…♡」

重「はあい、はあい…♡

お射精、ぴゅっぴゅ…♡」

代「はあい、はあい…♡

お射精、ぴゅっぴゅ…♡」

代「んっくううん…♡

んっくううっ、んっふっ、んっうん♡

ふうううん…♡ ふっ♡ ふっう♡

んっくうっ、くっふううん…♡」

代「ぷっあ…♡

んっ、ふっ、ふううう…♡

んっぎゅん…♡

んぐっ♡ っ「ぎゅっ、っ「ぎゅっ♡

っ「ぎゅん…♡

っはあ…♡

いっばい出して、ありがとうね…♡

ふふふ…♡」

重「さあ…♡

もっとかわいがってあげる…♡

今度は朝まで、眠らせないわよ…♡」

代「いっぱい、いっぱい、いっぱい…♡♡

金玉ザーメン…♡

搾ってあげちゃうからね…♡」

重「うふふふふ…♡」

代「ふふふふふ…♡」

● 第12章

重「っあゝ…っ♡

っはあ…♡

んふふふ…♡

初めて二人きりになれたわねえ…♡

今までずっと、二人いっしょにおちんちんしてたけど…♡

こういうのもいいでしょう？

あは…♡

一人だからって、二人でした時より物足りないなんて、

言わせない…♡

いいえ、それ以上に強く、激しく…♡

ボクのおちんちん、犯し尽くしてあげちゃうから…♡

お姉さんのおまんこ、

昨日よりもすんごく熱くなっちゃってるから…♡

覚悟しなさいねえ…♡

ほぅら…♡

勃起おちんちに、おまんこ…♡

んふふ…♡

一気に奥まで入れたげるね…♡

大きいお尻、ばっちゅん、叩きつけ、てえ…っ♡

ほぅらぁっ♡

あっはぁ…♡

おちんちん気持ちよすぎちゃうねえ♡

のけぞっちゃうぐらい気持ちいいんだもんねえ♡

でも、よくお漏らし我慢できたねえ♡

気持ちよすぎてぴゅっぴゅって、

お漏らしお射精するかと思ってたのに…♡

すごいねえ…♡

かっこいいねえ…♡

おまんこしてもらうの、もう慣れっこだもんねえ…♡

だけど…♡ そんな慣れっこおちんちんでも、

あっという間にお射精させちゃうぐらいの、

すんごいおまんこレイプ…♡

してあげるからねえ…♡

ほらほらほらあっ♡

どちゅどちゅどちゅどちゅっ♡

おまんこ、動かしてえ…♡

ボクのおちんちん、耐えきれないぐらいのピストン…♡

おちんちん、気持ちいいねえ…♡

んふふふふ…♡

っはあ…♡

もう喘ぎ声、出てきちゃってるう…♡

まだまだ始まったばかりなのにねえ…♡

そんなことで大丈夫かなあ？

お姉さん、今日はあ…♡

ボクのザーメンで、お腹いっぱいになるまで、

止めるつもりないんだからねえ…♡

ボクが何度びゅっぴゅしてもお…♡

もうやめてえって言っても…♡

無理矢理、何回も、何度でもお…♡

中出しどっぴゅん、させちゃうからねえ…♡

あっはあ…♡

ほら、ボクう…♡

何回もぴゅっぴゅするの大変でしょお？

だから、お姉さんの涎飲んで、おちんちん、

喜ばせちゃおう…♡

お姉さんの涎、いっぱいごくごくすれば、

おちんちんあっという間に、硬あくなるからねえ…♡

さあ、お口、あぐん…っ♡

んふふ…♡

ほら、ごっくんだよお…♡

いっぱい飲んでえ…♡

お姉さんの涎でお腹いっぱいにしてえ…♡

おちんちん、ガッチガチい…♡

硬くしてもらったおちんちん、

お姉さんのみっちりむっちりおまんこで、

幸せ包みい…♡

ぐっぽぐっぽって犯されて、

たっぷりぴゅっぴゅしようねえ…♡

小さいおちんちんから、たっぷりのザーメン…♡

溢れさせちゃえ…っ♡

ほうら…♡

お姉さんのお顔、もっと見なさい…♡

ボクのかわいいお顔、じゅって見てあげるからあ…♡

んふふふ…♡

あはっ♡ 出ちゃう？ 漏れちゃう？

ええ、いいわよお…♡

出しなさい…♡

いっぱい出しなさい…っ♡

イケ、イケ、ほら、出せ…っ♡

おちんちんザーメンっ♡

ぶびゅぶびゅぶっぴゅう…♡

イケ、イケ、イケ、イケ…っ♡

弱いおちんちん…♡

イッケえ…♡

あっはあ…♡

出てる出てる♡ いっぱい搾られちゃってるねえ…♡

お姉さんのおまんこに、また中出し…♡

気持ちいいねえ…♡

お嫁さんのおまんこだもんねえ…♡

中出し種付け気持ちいいに決まってるよねえ…♡

だけどまだまだあ…♡

あっはあ…♡

今度はこうして、キミのことぎゅってしたまま♡

おちんちんハメハメえ…♡

お姉さんのおっぱいにお顔と身体押し付けたままあ♡

おちんちんずぶずぶされちゃおうねえ…♡

ほら、ほら、ほうらあ…♡

いっぱいおまんこ押し付けてえ…♡

対面座位レイプ…♡

お姉さんに抱っこされながらセックスう…♡

気持ちいいねえ…♡

おちんちん熱くなっちゃうねえ…♡

金玉汁、沸騰しちゃあう…♡

よしよし、よしよし…♡

赤ちゃんみたいに抱きしめられて、

赤ちゃん作るセックスしちゃってるう…♡

身体ぎゅうって抱きしめられながら、

おちんちんむぎゅうって、おまんこに抱きしめられてるう…♡

んふふふふ…♡

ああ、いいお顔お…♡

自分じゃあわからないわよねえ…♡ ボクう…♡

ボクね、今あ…♡

お姉さんに犯されて、アへ顔晒しちゃってるわよお…♡

かわいいかわいのおちんちんアへ顔お…♡

ああ、食べちゃいたあい…♡

んふふふふ…♡

ボクの味い…♡

ボクのアへ顔のお味い…♡

いっぱい味わわせてねえ…♡

んふっ♡ んふふっ♡

美味しい…♡

美味しいわぁっ♡ ボクのお顔お…♡

涙と、鼻水と、涎と…っ♡

ぜえんぶ混じったボクのお味い…♡

っぁぁ…っ♡

おまんこに響いてきちゃう…♡

おまんこぞつくぞく感じてえ…♡

おまんこきゅうきゅう、おちんちん締め付けちゃうう…♡

んぁ、んう、ぁん、うん、ぁん、ぁんっ♡

ぁっはぁ…♡

ほら、ボクっ♡ もっとお…♡

もっとおちんちん硬くうう…♡

お姉さん、発情止まらないの…っ♡

もっとボクのおちんちんでおまんこ気持ちよくなりたいのお…♡

ぁぁ、もうダメっ♡

我慢できない…♡

本気ピストン…っ♡ 止めらんない…♡

あっはぁぁ…♡

どちゅどちゅどちゅどちゅ…♡

んっいい…♡ いいっ♡ いいい…♡

ボクのおちんちん、かわいいおちんちんっ♡

小さくってっ、ザッコいおちんちんっ♡

レイプするのっ、最高お…♡

はぁぁあっ、あっはぁぁぁ…♡

出る出る出る出るっ♡

おちんちん出るねえっ♡

我慢できないっ♡ 我慢させないっ♡

出せっ♡ イケっ♡ おちんちんイケっ♡

イケイケイケイケっ♡

出っせえ…♡

んふふふふっ♡

お漏らしびゅっびゅ…♡

ザー汁どっぶどぶ…♡

金玉精液っ♡ おちんちん、吐き出されてえ…♡

っぁぁ…っ♡ 子宮にびちゃびちゃっ♡

いっぱいかかるう…♡

ふっ、くっ、はっあああ…♡

ああ、子宮、来るう…♡

熱いの、来るっ、来るっ♡

いっぱいあい…♡

あはあ…っ♡

ほうら、ボクう…♡

高い高あい…♡ あっはあ…♡

お姉さんに持ち上げられて、逆駆弁…っ♡

お姉さんに逆オナホにされちゃってるよお…♡

オナホって言ってもわからないかなあっ♡

おもちゃって意味だよお…♡

うふふふふ…っ♡

大きいお姉さんにとってはあ、ボクなんてえ…っ♡

おもちゃみたいなもののお…っ♡

おちんちんずぶずぶするためのおもちゃ…っ♡

おまんこどちゅどちゅさせられる、ただのおもちゃあ…♡

壊れるまで…っ♡ 遊び倒されちゃうねえ…っ♡

あっはあ…♡

ほらっ、ほらっ♡

お口もお顔もっ、どろっどろにしてあげるっ…♡

お顔の中も、外もっ♡

お姉さんの涎まみれになって…♡

おちんちんもっと、びくんびくんってえ…♡

ザーメンまみれのにゆるにゆるおまんこ、

気持ちいいねえ…♡

セックス最高だねえ…♡

お姉さんとハメハメできてよかったねえ…♡

ほうら、どうしたの♡

うんって言って♡ よかったって、言いなさい…♡

ほらっ、ほらあっ♡

こんなにおちんちんしてもらってるんだからあ…♡

おちんちんお射精しまくってるんだからあっ♡

よくないわけ、ないでしょお…っ♡

ほらっ、言えっ♡

お姉さんとおまんこできて嬉しいってっ♡

言・え…っ♡

お姉さん好きって♡

お姉さん大好きって…♡

言いながら、またお漏らし…♡

どっぴゅん出しちゃえ…♡

おちんちんぶっ壊れ射精…♡

おもちゃになったボクが、壊れちゃうような射精…♡

しろお…っ♡

イケ♡ イケ♡ 出せ出せ♡

イケ♡ 出せ♡ ザーメン出せっ♡

漏らせっ♡ ぶちまけろっ♡

金玉汁っ♡ 金玉ごとっ♡

破裂させてっ♡ 出せえっ♡

っはぁ…♡

お姉さんに抱っこされてえ…♡

ひとつつもかっこよくなんかない、

さいってーのお射精…っ♡

決めちゃええ…っ♡

そうらっ♡ イッケええ…っ♡

出せ出せ出せ出せっ♡

もっと出せっ、出せえ…♡

出せっ♡ イケっ♡ 出せっ♡ イケえ…っ♡

おちんちん、中出しいい…っ♡

止めるなっ♡ もっとっ♡

おちんちんっ、漏らせっ♡

チビオスう…♡

あっはぁ…♡

ふふふ、ふふふふふ…♡

おちんちん、いっぱい出たねえ…♡

えらいねえ…♡ すごいねえ…♡

たくさんお射精出来てえ…♡

よかったねえ…♡

クソダサ強制お漏らし…♡

最高だねえ…♡

んふふふふ…♡

でも、まだまだだよ…♡

今度は八代お姉さんとお…♡

また、たあっぷり…♡

ハメハメセックス、しちやおうねえ…♡

おちんちん、休ませる時間なんて、

ないんだからねえ…♡

んふ…♡

んふふふふ…♡「

● 第13章

代「ふふふ…♡

おちんちん、お疲れかもしれないけど…♡

今度は八代お姉さんと、いっぱい遊ぼうねえ…♡

おちんちん、たっくさん…♡

お姉さんのおまんこの中で、

甘やかしてあげちゃうからね…♡

お姉さんはあ、ボクがどんなウソをついても、

ぜーんぶお見通しだから…♡

おちんちんもうしたくなあい、とか…♡

もうお射精できないよお、とか…♡

お姉さんのことなんてキレイ、とかあ…♡

そういうの、全部ウソだってわかってるから…♡

お姉さんと好き好き同士…♡ いっぱいハメハメしちゃおうね…♡

ほら…♡ お姉さんのおまんこの中あ…♡

おちんちん、いらっしやあい…♡

んっはあ…♡ あっはあ…♡

ボクのおちんちん、ガチガチい…♡

ああ、お姉さんのこと思って、こんなにしてくれてるんだ…♡

うん、うん…♡

お姉さんもボクのこと、だあい好きだよお…♡

だからいっぱい…♡

おちんちんレイプしてえ…♡

金玉ザー汁、どっぷり搾ってあげちゃうねえ…♡

ほうらあ…っ♡

おまんこどちゅどちゅう…♡

おちんちんぐっぽり、おまんこキツキツ、締め上げてえ…♡

あはあ…♡

ほらほらほらあ…♡

おっきいお尻、何度も叩きつけてえ…♡

おちんちん、ぐっぐぐう…♡

お姉さんのおまんこ気持ちいい？ んふふ…♡

いっぱい感じちゃってねえ…♡

大好きなお姉さんのおまんこでえ、いっぱいっぱあい…♡

お嫁さんおまんこ味わえるのはあ、旦那様の、

ボクだけの特権だからねえ…♡

あはあ…♡

ほうら…♡

だっぷんだっぷん揺れる、お姉さんのドスケベおっぱい…♡

むぎゅうって掴んじゃおうか…♡

お手々が全部沈んじやうぐらいのデカ乳い…♡

いっぱい味わって、おちんちん、

気持ちよくなっちゃお…♡

ほら、ほら♡ 揉み揉みしてえ…♡

お姉さんのおっぱい大きすぎてえ…♡

ボクのお手々、ないないしちやあう…♡

あったかくって、柔らかくってえ♡

ドキドキしちゃうねえ♡ んふふ…♡

ボクのおちんちんも硬くなつて、

気持ちいいよおい…♡

お姉さんのだあい好きな、ちっちゃいおちんちん…♡

レイプするのにちょうどいい大きさ…♡

お姉さんに絶対抵抗できない、

よわあいボクにお似合いの、ミニミニおちんちん…♡

ばっちゅんばっちゅんこすりあげるの、

最高だよお…♡

あっはあ…♡

ほらっ、ほらっ、ほうらあ…♡

ぎゅっぎゅっぎゅっぎゅう…♡

おちんちんみっちみちにしめあげる、

お姉さんのおまんこ…♡

ひだひだもねっちよりおちんちんに絡みついてえ…♡

精液啜り出しちゃうねえ…♡

ほら、ほうら…♡

お姉さんの涎、いっぱいぐくぐくしてえ…♡

おちんちん興奮しちゃう、魔法のお汁…♡

ごつくんするだけで、おちんちん、

ガッチガチになっちゃうよお…♡

ほら、飲んで♡ ボクう…♡

いっぱい飲んで、おちんちん、熱くう…♡

お姉さんのためにい…♡

お嫁さんのためにい…♡ おちんちん♡

ガッチガチい…♡

あっはあ…♡

出ちゃう？ 出ちゃうんだあ…♡

お嫁さんべろちゅーしてもらって、

おちんちんお漏らししちゃうんだあ…♡

いいよお、ほうら…♡

おまんこもつと、ぎゅゝって♡

おちんちん締め付けちゃうからあ…♡

出しちゃえ♡ 出しちゃえ…♡

出あせ♡ 出あせ…♡

ザーメン出せ出せ♡ おちんちんイッケえ…♡

お姉さんのおまんこに♡ お漏らし種付け♡

びゅっびゅっびゅうう…♡

あっはぁ…♡ びゅっびゅう…♡

どくどくう…♡ お姉さんのおまんこに、びゅるるう…♡

気持ちいいねえ♡

お射精しながら、おまんこぎゅっぎゅ…♡

ばちゅばちゅピストン止めないよお…♡

ボク、お姉さんのおまんこ、好きだもんねえ…♡

いっぱいいきつきつ締めてもらうの、大好きだもんねえ…♡

ほうらぁ…♡

ボクの身体、抱きしめて…♡

お姉さんのおっぱいに沈めてあげるう…♡

揉み揉みするのも好きならぁ…♡

こうしてむっぎゅうって、おっぱいに押し付けられるのも、

好きだよねえ…♡

おまんこでおちんちんぎゅうってしながらぁ♡

小さい身体も、大きいお姉さんに抱きしめられて、

押し潰されてえ…♡

あったかぽかぽかぁ…♡

気持ちいいねえ…♡

んふふ…♡

お嫁さんと抱き合いながらセックスう…♡

いちやらぶ子作り、幸せすぎい…♡

最高だよねえ…♡

だからあ、おちんちんいやいやなんて、

嘘つかなくっていいんだよお…♡

恥ずかしがってるのかなあ？

かわいいだからあ…♡ あっはあ…♡

ボクがお嫁さん交尾好きなのは、

もうわかってるんだからあ…♡

黙っておちんちんだけ、硬くしてなさあい…♡

ほうら…♡

かわいいボクちゃん、食べちゃうぞお…♡

いっぱいべろべろ、涎まみれ…♡

おちんちんも金玉も熱くなる、

お姉ちゃんのお汁まみれにい…♡

っはあ…♡

ほら、ぎゅっぎゅ、ぎゅっぎゅう…♡

お姉さんと「っ」になったみたいにい…♡

んふふふふ…♡

ほら、ほら、ほうら…♡

お姉さんのおっぱい包まれて、挟まれて…♡

昨日、風呂で全身パイズリしてあげたみたいにい…♡

おっぱいで、みっちみちい…♡

おちんちんみたいに、身体、搾り上げてえ…♡

あはあ…♡

気持ちいい時の声…♡ 出ちゃってるう…♡

男の子がおちんちん気持ちよくって、

おかしくなってる時の声…♡

お姉さん、だあい好き…♡

興奮しちゃう…♡

おまんこ発情止まらなくなっちゃう…♡

だから、もっと聞かせてね…♡

ボクの喘ぎ声…♡

おちんちん、おかしくしてあげるから…♡

もっといっぱい、感じさせてあげるからあ…♡

ほらほらほらあ…♡

ばちゅばちゅばちゅばちゅ…♡

おちんちんぎゅうぎゅう、締め付けてえ…♡

金玉汁っ、搾り上げちゃう…♡

んふふふ…♡

あはあ…♡

また出ちゃうんだあ…♡

おちんちんイクイクしちゃうんだねえ…♡

いいよお、いいよお…♡

ほうら、出しちゃえ出しちゃえ…♡

イケイケ、イケえ…♡

お姉さんのおまんこで、おちんちん、負けちゃえ…♡

情けない声出して、ザーメン出っせえ…♡

びゅっ、びゅっ、びゅっ、びゅううう…♡

おちんちんお漏らし、二回目え…♡

あっはあ…♡

でも…♡ もうわかってるんでしょ？

ボクだって…♡

まだまだお姉さん、おまんこ、やめたげないってえ…♡

ほうらぁ…♡

小さいボクのこと持ち上げて、いっぱいユサユサぁ…♡

赤ちゃん寝かしつけるみたいに、ゆーらゆーらしてえ…♡

おちんちん、おまんこずりずりい…♡

んふふ…♡

こんなに早く動かされたら、

赤ちゃんだったら、おねむなんてできないけどお…♡

ボクは、こうしておちんちんずぶずぶしてもらうの、

好きだもんねえ…♡ あっはぁ…♡

ほら、ほうら…♡

お姉さんと駆弁セックスう…♡

持ち上げられてるの、ボクの方だけどお…♡

小さいボクちゃんにはこっちの方が、

お似合いでしょ…♡

お姉さんに持ち上げられてえ…♡

自分でおちんちんずぶずぶすることもできないで♡

おまんこの快感だけ、おちんちに叩き込まれてエ…♡

脳みそおかしくなっちゃうねえ…♡

イキまくりおちんちん、敏感なのも無視されて♡

金玉汁、搾り出される逆レイプ交尾…♡

大きいお姉さんのおもちゃにされるの、気持ちいいねえ…♡

ほうら…♡ 泣きそうになってるお顔もお…♡

っはぁ…♡

お姉さんの大好物なんだから…♡

はぁ…♡

そんなお顔してたら、もっとおまんこ、

キツうくなっちゃうんだよお…♡

だから笑って、ボクう…♡

大好きなお姉さんと、好き好き交尾できて、

嬉しいですうってえ…♡

笑いなさあい…♡

んふふふ…♡

ほうら、ボクう…♡

笑顔のボクを見せてえ…♡

最初にお姉さんとえっちなことをしてた時は、

とくてもうれしそうだったでしょお…♡

どうして笑ってくれないのかなあ…♡

んふふふ…♡

まあ、お姉さんはあ

ボクの笑った顔も、泣いてる顔も、

大好きだからあ…♡

どっちにしても、おまんこ発情、

止まらなくなっちゃうけどねえ…♡

ほうらあ…♡

おまんこぎゅっぎゅ♡

おまんこみちみちい…♡

おちんちん、搾り上げてえ…♡

ぎゅうううう…♡

あっはあ…♡

おちんちんヤバイねえ…♡

きつきつむぎゅむぎゅで、おちんちんまた、

お漏らししちゃうそう…♡

おちんちん爆発しちゃいそう…♡

いいよお、出してえ…♡

またいっぱい、お姉さんの中あ…♡

小さいおちんちん必死に震わせて、

おまんこ中出し…♡

お姉さんの子宮に、どばどば出してえ…♡

小っちゃいボクのかわいいおちんちん…♡

逆レイプされて喜んで、

よわよわ精子、いっぱい出しちゃえ…♡

出せ♡ 出せ♡ 出せ出せ出せ出せえ…♡

イッケ♡ イッケえ…♡

お嫁さんおまんこにい…♡

種付けびゅっびゅうう…♡

っびゅうううう…♡

ぶっびゅうううう…♡

お漏らしびゅっびゅうう…♡

ザーメンどっぶどぶう…♡

出せ、出せ…♡

もっと出せ…♡

おちんちんイキながら、ずぼずぼされてえ…♡

おちんちん汁、搾り出せえ…♡

っはぁぁ…♡

あはっ♡ あはははは…♡

ぐったりしてるボクも、すっごくかわいい…♡

お姉さん、ボクのこと、ぜーんぶ好きだよお…♡

一生お姉さんたちのお側にいさせてあげる…♡

大きくなっても、どうせお姉さんたちより、

小さいままなんだから…♡

ずうっとお姉さんたちに、おもちゃにされちゃおうね…♡

ねえ？ かわいいボクう…♡

んふふふ…♡「♡」

● 第14章

重「っはぁ…♡

ほうら、ほうら…♡

おちんちん気持ちいいでしょお…♡

んふふ…♡

お姉さん二人に、前後からぎゅうって挟まれて…♡

小さい身体、おっぱいで拘束されながら、

おちんちん、ズボハメレイプう…♡

金玉ザーメン、またいっぱい、

搾られちゃうねえ…♡」

代「ボクのおちんちんはもう、

一生お姉さんのおまんこの中だからねえ…♡

起きてる時は、ずうっとお姉さんのおまんこで搾られてえ…♡

寝てる時も、お姉さんのおまんこ布団で、

ぬくぬくさせてあげるからねえ…♡

あはあ…♡

ずうっとずうっとお…♡

お姉さんたちと、えっちしっぱなしだよお…♡」

重「もうやめて？

あは…♡ やめてあげない♡

お姉さんたち、まだまだ満足してないもの♡

満足なんて、することないけどお…♡

かわいいボクを見てたらあ、おまんこ発情、

止まらないからあ…♡

いつまでも、おまんこにゆるにゆるしっぱなしだよお…♡」

代「最初にお姉さんたちをお家に上げちゃった時から、

こうなることは決まってたの…♡

見ず知らずの人をお家にあげちゃいけないって、

お母さんに教わらなかったあ？

あはあ…♡

だからこれは、ボクのせい…♡

ううん…♡

ボクの、おかげえ…♡

んふふふ…♡」

重「ほら、ほら…♡

おちんちんびくびく止まらない…♡

また出ちゃう♡

お漏らし我慢できない♡

出したくないのにまた出る♡ また漏れる♡

おちんちんイクイク…♡

ほら、出しちゃえ、出しちゃえ♡

イケイケ、イッケえ…♡

おちんちんイケ♡ ザーメン搾り出せ…♡」

代「おまんこの中に、熱々金玉汁…♡

いっぱい吐き出せ♡

漏らせ♡ イケイケ♡

おちんちんびゅっびゅう…♡

かわいい悲鳴上げながらあ、イッケえ…♡」

重「出せ♡ 出せ♡

よわよわザコちんちん…♡

小さいおちんちんから、勢いよく…♡

ザーメン漏らせえ…♡

ほうら、びゅっびゅっびゅっびゅう…♡

どくどく漏れるう…♡

おちんちんイクイクう…♡

んふふふふ…♡
「♡」

代「出ちゃうねえ♡

真っ白おしっこしーしー止まらなあい…♡

最初にどっぴゅんした時は、

あんなに幸せそうだったのにねえ…♡

今じゃもう…♡

ふふふ…♡ 怖くて怖くて、たまんなあい…♡

だけどお…♡

その怖いお射精が…♡

気持ちよくって、たまんなあい…♡

あっはあ…♡

ほうら…♡

またいっぱい、ザーメンどっくん♡

出しちゃおうねえ…♡

気持ちよく♡ びゅるるう…♡」

重「んふふふ…♡

おちんちんレイプ♡ 止まらないよお…♡

止めないよお…♡

ずっとおまんこ、ハメっぱなし…♡

それでもいいよねえ…♡

ボクにはまだわかんないかもしれないけど…♡

オスなんて、それができれば他には何にもいらないぐらい、

おちんちんのことだけ考えてるような、

お馬鹿さんなんだから…♡

ボクだって…♡

いずれはそうなっちゃうんだよ…♡

だったら今のうちに…♡

お姉さんのおまんこ潰けにされちゃっても、

別にいいでしょお…？

んふふふ…♡」

代「おちんちん気持ちいいもんねえ…♡

おちんちんぴゅっぴゅも最高だもんねえ…♡

なあんにも悪いところなんてない…♡

お姉さんのえっちな身体に包まれて…♡

身体中、ぽっかぽかに温めてもらってえ…♡

お口も、おちんちんも、お耳も、他のところも、

みいんな気持ちいい…♡

嫌なことなんて、どこにもなあい…♡」

重「だから早く素直になっちゃえ…♡

お姉さんのおまんこで、おちんちんぬくぬくしてえ…♡

おちんちんへこへこしてれば、

それだけで幸せなんだから…♡

ほうら…♡

おちんちん、中でガチガチ、勃起止まらない…♡

金玉ぐつぐつ熱くなって、

また精液、出ちゃいそう…♡

出る出る出る出る♡

おちんちんイクイク…♡

出しちゃえ、出しちゃえ…♡

我慢しないでいいからねえ…♡

我慢なんか、させないからねえ…♡」

代「はっああ…♡

ほら、子宮むちゅうってくっつけてえ♡

おちんちん、イカせちゃあう…♡

先っぽちゅうちゅう♡

ちっちゃいおちんちんちゅっちゅっちゅう♡

出せ、出せ、出あせ…♡

イケイケ♡ イケイケえ…♡

おまんこびゅっびゅ♡

お姉さんのおまんこに、また種付けえ…♡

金玉汁…っ、出せえ…♡

ほら、ほら、おまんこぎゅううう…♡

びゅるるうう…♡

びゅっびゅっ、どっぴゅうう…♡」

重「んふふふう…♡

ザーメンどっぴゅん気持ちいいねえ…♡

ザーメンびゆるびゆる最高だねえ…♡

なのにボクは、いやだ、いやだって…♡

ふふふ…♡

恥ずかしがらなくていいのに…♡」

代「じゃあ、ボクに素直になってもらうために…♡

今度はボクの方から、おちんちんぱん♡

してもらおっか…♡」

重「あは♡ いいわねえ…♡

ほうら…♡

こうしてえ…♡ ボクがお姉さんの上になってえ…♡

正常位交尾♡ してみよっか♡

久しぶりに、ボクのおちんちんのかっこいいところ、

見てみたいし…♡

ほら、来て…♡ おちんちん、ぱんぱん…♡

お姉さんのこと、孕ませて…♡

出来ないなんて…♡ 言わせない…♡

あっはあ…♡

そうそう、おちんちん、ずっぶんってえ…♡

そのまま、へこへこお…♡

あっはあ…♡ おちんちん、おっそいわねえ…♡

そんなピストンで、お姉さんのこと、

本当に孕ませられるのかなあ…？

んふふ…♡」

代「そんなピストンじゃあ、だあめ…♡

お姉さんたちのこと孕ませたかったらあ、

もっと強くおちんちん、ずぼずぼしないとお…♡

ほうら…♡

お風呂でした時はもっと上手だったでしょお…♡

あの時みたい強く腰振りしてえ…♡

後ろからまた、支えててあげるからあ…♡

おっぱい押し付けて、ぎゅゝってしてあげるからあ…♡

お姉さんたちのこと、孕ませてごらあん…♡

さもないとお…♡

ふふふ…♡」

重「あああん…♡

あはぁ…♡ おちんちん、早くなったぁ…♡

すごいねえ♡ かつこいいねえ♡

ヘッタクソなピストンだけどお、さっきよりは、

全然マシい…♡

んふふ…♡

っはぁ…♡

だけどまだまだぁ…♡

もっとおちんちん強くしないと…♡

っはぁ…♡

本当に、ボクのこと…♡

食べちゃうよ…？

あは…っ♡
「♡」

代」ほうらっ、ほうらっ♡

ぱんぱんぱんぱんっ♡

どちゅどちゅどちゅどちゅ…♡

泣きそうになったってだぁめえ…♡

しっかり孕ませくれないと…♡

お仕置きしちゃうよぉ…♡
「♡」

重「んっうん…♡

おちんちん、奥、届いてるう…♡

あはっ♡

そうそう、そこよお…♡

そこにいっぱいザーメンびゅーってすれば、

孕ませられるからねえ…♡

もう何度も何度も中出し種付けしたから、

覚えてるもんねえ…♡

どうぞお、どうぞお…♡

いいよお、出して…♡

お姉さん孕ませびゅっぴゅう…♡

いっぱい、出せ…っ♡

イケ♡ 出せ♡ イケ♡ 出せ♡

イケ、イケ、イケ、イケえ…♡

あっはあ…♡

びゅっぴゅっぴゅっぴゅう…♡

奥にみっちりおちんちん押し付けて、どっぴゅうう…♡

お射精上手う…♡」

代「はあい♡ いっぱい出そうねえ…♡

孕ませぴゅっぴゅ…♡

どくどくびゅびゅびゅ…♡

いっぱい中出し上手だねえ…♡

よしよし、よしよし…♡

それじゃあそのままあ、もう一回…♡

孕ませ種付け、してもらうからねえ…♡

もう一回、おんなじことするだけだよ？

できるよねえ…♡

ほうら、お姉さんがぎゅ♡ ってしてあげる♡

このままおまんこに、ぶっちゅうって♡

おちんちん入れてえ…♡

はあい…♡

おちんちん、ぶっちゅうん…♡

また上手にへこへこ♡ してちょうだいねえ…♡

あん♡ やあん♡

そうそう、その調子い…♡

ピストン上手う…♡

んふふふふ…♡」

重「ふふふ…♡

二人のお姉さん、同時に孕ませられて、

すごいねえ、ボクう…♡

今、オスとして最高の瞬間、

味わえちやってるんだよお…？

すごいでしょお…？

こんなにいっぱい子作り交尾できてるのに…♡

なんでそんなに怖がってるのかなあ？

ふふふ…♡

もっと楽しく子作りしましょうよ♡

ねえ、ボクう…♡」

代「無理とか言っちゃだめめ…♡

ほら、笑顔、笑顔お…♡

お姉さんたちと、楽しく赤ちゃん作りましょ…♡

孕ませおちんちん気持ちいいでしょお？

金玉も熱々煮え滾ってえ…♡

中出しする気満々…♡

ボクだけが、ずうっと怯えっぱなし…♡

なんでかなあ…？」

重「お姉さんたちのこと、キライになっちゃったの？

あんなに楽しかったのに…♡

ふふふ…♡

ほうら…♡ もっといっぱい気持ちよくしてあげる…♡

うしろから、ボクのかわいい乳首、こりこりこりってえ…♡

気持ちいいでしょ？ ねえ…♡

ほうら♡ ほうら♡

おちんちんいっぱい気持ちよくなってえ♡

お姉さんたちのこと、孕ませてごらん…♡

いっぱいザー汁、出してごらん…♡」

代「お姉さんとお、いっぱいべろちゅー…♡

お口の中まで犯されてえ…♡

お姉さんの涎でべっとべとにされてえ…♡

おちんちんお漏らし…♡

また、たくさん出せ…♡

ほうら…♡

イケ♡ イケ♡ イケ♡ イケ♡

出せ出せ出せ出せ♡ どっぴゅんしろ…♡

孕ませろお…♡」

重「孕ませザーメン♡

びゅるるう、びゅるるう…♡

おちんちん奥で、爆発させろお…♡

出せ出せ出せ出せ♡

出せ、出せ、出あせ…♡」

代「はあい、びゅっびゅっびゅっびゅっびゅっ…♡

どっぷどっぷ…♡

熱いの出てるよお…♡

孕ませ上手う…♡ お射精びゅびゅびゅ…♡

んふふふふ…♡」

重「上手に孕ませられたねえ…♡

よかったねえ♡ んふふ…♡

じゃあ…♡ もう一回、交代しよっか♡

ふふ…♡」

代「これで終わりって、誰が言ったかなあ…？

まだまだおちんちん、

遊ばせてもらうからねえ…♡」

重「ほうら…♡

今度はまた、こっちのおまんこお…♡」

代「それともまた、お尻でしちゃう…？

ボクが入りたいところ、入れていいよお…♡」

重「ほうら…♡

おちんちん、こっちい…♡」

代「おちんちん、ハメてえ…♡」

重「ボクのおちんちん、よこせえ…♡」

代「ボクのおちんちん、よこせえ…♡」

母「ただいま。」

用事が一段落したから、お母さんだけ早く帰ってきちゃったあ。

一人で大丈夫だったあ？

ひゃっ！？

ちよっと、何何？ ふふふ♪

いきなり抱き着いてくるなんて♪

そんなにさびしかったの？

まったくもう。まだまだ甘えん坊なんだから…♡

ふふふ…♡

え？ 怖いお姉さんたちに食べられそうになった？

あは、何言ってるの？

そんな人たち、どこにもいないじゃない。

夢でも見てんじゃないの？

ほら、お布団ぐちゃぐちゃ。

ここで寝てたんでしょ？ ふふふ…♪

しかしまあ、今の子でも、

そういうお化けが出たなんて話するのねえ。

お母さんが子供の頃にもあったわよ、そういうの。

村に伝わる、ナントカとかいう…。

なんだったかしらね…

でも、そういうのはだいたい、ウソというか、

見間違ひみたいなものでねえ…。

まあいいわ。

お母さん、お腹空いちゃった。

お話なら後で聞くから、まずはご飯、

一緒に食べましょ？

ふふふふふ…♪
「

● 第15章

母「じゃ、お母さん、行ってくるからね。

この間も一人で過ごせだし、

今回も大丈夫よね？

また何日かしたら帰ってくるからね。

気をつけてお留守番してるのよ？

それじゃあ、行ってきま〜す♪」

宅「お届け物で〜す。

どなたかいらっしゃいますか〜?」

重「ばあ♡

あはあ…っ♡

久しぶりねえ、ボクう…♡

まあた声真似に騙されちゃうなんて…♡

相変わらず、かわいいんだから…♡」

代「残念でした♡

扉を開けちゃった時点で、お姉さんたちはもう、

いくらでも中に入れちゃうの♡

ほら、捕まえた♡♡

やぁん、ボク…♡ ちょっと大きくなった？

数ヶ月ぶりだもんねえ…♡」

重「久しぶりに会ったっていうのに、

お姉さんたちのこと、歓迎してくれないの？

あんなにいっぱい、楽しく遊んだ仲なのに…♡

お姉さんたちのおまんこに、あんなにたっぷり、

精液注いでくれたのに…♡」

代「歓迎…してくれるよね？

今から、ボクの部屋で…♡

また、みんなで仲良く…♡

いっぱい、いっぱい、いっぱい、いっぱい、

いっ…っばい…♡

遊んでくれるよねえ…♡」

重「うふふふふ…♡」

代「うふふふふ…♡」

重「あっはあ…♡

ボクのおちんちん…っ♡

久しぶりい…♡

あんっ♡ あんっ♡ あはっあ…♡

おちんちんも少し、大きくなったみたいねえ…♡

さすが男の子は、成長、早いんだからあ…♡

んふふ…♡」

代「だけど、まだまだぜくんぜん、

お姉さんたちより小さいまま…♡

このままぐんぐん成長したって、

大人になっても確実に、

小さいままだよお…♡

いつまでも、ボクでいられるねえ…♡

よしよし、よしよし…♡

お姉さんの膝枕、気持ちいいねえ…♡」

重「今日はねえ、ボクにプレゼントがあるの…♡

ほら、お姉さんたちのおっぱい…♡

よく見てえ…♡」

代「ボクのお顔よりも大きいデカ乳…♡

いっぱい揉み揉みちゅうちゅう、

むぎゅう〜ってしてあげたこのおっぱい…♡

ボクがこの前、いっぱい中出ししてくれたおかげでえ…♡」

重「ほうら…♡

おっぱいミルク♡ 出るようになったの♡」

代「ボクのための母乳だよお…♡

いっぱい飲んで、また、おちんちん…♡

たくさんガッチガチにしちやおうねえ…♡」

重「ほらほら…♡

おっぱいちゅうちゅう、たっぷり飲んで…♡

お姉さんにおちんちん犯されながら、

おっぱいぐっぐぐ…♡」

代「慌てなくていいからねえ…♡

好きな方のおっぱいを、好きなだけ…♡

順番ずつでも、一気でもお…♡

好きなだけ、飲みまくっちゃおうねえ…♡」

重「いっぱい出るからねえ…♡

たくさん出ちゃうからねえ…♡

ボクのおちんちんみたいにい…♡

空っぽになることなんか、絶対ないんだからねえ…♡

あはあ…♡」

代「はあい、よしよし、よしよし…♡

おっぱいちゅうちゅう、美味しいねえ…♡

おちんちんいっぱい、むくむくしちゃうねえ…♡」

重「熱々おまんこ久しぶりのセックス♡

楽しいねえ♡ 気持ちいいねえ♡

おちんちんぱんぱん、最高だねえ♡」

代「お姉さんたちがいない間あ、ちゃあんと

オナニーしてたかなあ？

それとおちんちんいじるの怖くなって、

ずっと我慢してたのかなあ？」

重「溜まったザーメン、お姉さんたちの中に、

またたあっぷり、出しちゃってねえ…♡

ほうら…♡ おまんこきゅうきゅう、

締め付けてえ…♡」

代「おっぱいもたくさんたくさん出るからねえ♡

お腹いっぱいになるまで、ごくごくしてねえ…♡」

重「ほうら、ほうら…♡

出ちゃう、出ちゃう…♡

おちんちん出そうなの、わかっちゃう…♡

おちんちん、おまんこの中でびくびくうって♡」

代「いいよお、出してえ…♡

おまんこぴゅっぴゅ♡ 中出しどっくん♡

お姉さんのおまんこにい、久しぶりに、

種付けどっぴゅんしちやおうねえ…♡」

重「お口の中も、身体も…♡

お姉さんたちの母乳まみれになってえ…♡

真っ白お汁♡ 送り合っちゃおうねえ…♡」

代「ほうら、出して、出して…♡

おちんちんいい♡、おちんちんいい♡お…♡♡

はあい、はあい…♡♡

お射精どうぞお…♡」

重「あっはあん…♡

びゅっびゅっびゅっびゅー…♡♡

びゅるるう…♡♡ どっぴゅう…♡♡

いっぱい出てるう…♡♡♡

おまんこ、どぶぶぶう…♡♡」

代「久しぶりのおまんこお射精、

気持ちいいねえ…♡♡

よしよし、よしよし…♡♡♡

おちんちん中出しの気持ち良さ、

思い出してくれたかなあ？

それじゃあ、また、もう一回…♡♡

八代お姉さんのおまんこにも…♡♡

おちんちんぶっぴゅん♡♡

してくれるよね♡♡

あっはあ…♡

おちんちん、熱い…♡

はあい♡ おちんちんたんたん♡

お尻押し付け、ぱんぱんぱん♡

んふふ…♡」

重「よしよし、よしよし…♡

八重お姉さんの膝枕もどうかなあ？

気持ちいい？ ふふふ…♡

ほうら、おっぱいどうぞお♡

お顔の上にだっぶん垂れ下がる、

丸々大きなおっぱい…♡

いくらでもむしゃぶり着いちゃってねえ…♡」

代「おっぱいはこっちにもあるからねえ♡

ゆっさんゆっさん揺れるおっぱい、

その手で捕まえてえ…♡

ちゅうちゅうたっぷり、吸い付いてえ…♡」

重「あはあ…♡

はあい、ちゅうちゅう上手♡

ちゅばちゅば上手う…♡

いいい、いいいお…♡」

代「おちんちんも熱々ぽかぽか…♡

お姉さんのおまんこ、ぐりぐり押しつけてくる…♡

かっこいいおちんちんだよお…♡

すごいねえ…♡ 上手なセックス、

忘れてないんだねえ♡ んふふ…♡」

重「お姉さんたちと、何回も、何回も、

おまんこしたもんねえ…♡

ボクのおちんちんはもう、

すっかりベテランおちんちんだもんねえ♡」

代「だから、お姉さんたちのこと、

気持ちよくすることなんか当たり前え…♡

いっぱい感じさせてくれるんだよねえ…♡

んふふふふ…♡」

重「ほうら♡ ほうら♡

おっぱいぐくぐく、おっぱいちゅうちゅ♡

もうお腹いっぱいになるまで飲んでのに、

ぼんぼん膨らんでこないねえ♡

不思議だねえ♡」

代「おいしくって甘い母乳、

ごっくんしたそばから、ボクの身体に

吸収されちゃってるんだよお…♡

それがあつという間におちんちに伝わってえ…♡

また、おちんちん勃起、止まんない…♡

んふふふふ…♡」

重「はあい♡ いいよお、いいよお…♡

またお射精したくなっちゃったねえ…♡

出しちゃえ♡ 出しちゃえ♡

お姉さんの中に、ザーメンぴゅっぴゅ…♡」

代「びゅっぴゅ、びゅっぴゅ♡

気持ちよく中出ししようねえ♡

ほうら、どうぞ、どうぞお…♡

おまんこたんたんで、お迎えしてあげるからあ…♡」

重「出して、出してえ…♡

はあい、よしよし、よしよおし…♡

出る出る出る、おちんちん出るう…♡

はあい…♡ おちんちん、どうぞお…♡」

代「びゅうううう…♡

びゅっ、びゅっ、びゅるるう…♡

あったか精液、お姉さんの中に、

たくさん出てるよお…♡

んふふふ…♡

おちんちんぴゅっぴゅ、気持ちいいねえ…♡」

重「まだまだおちんちんもタマタマも、

元氣いっぱいだねえ…♡

なら、もっともっと、おまんこできるよね…？」

代「お姉さんたちも、ボクとセックスするの、

久しぶりだからあ…♡

もっといっぱい、楽しみたいんだあ…♡」

重「いいよねえ、ボク…♡

どうせ、ボクのカリヤ、お姉さんたちに、

逆らえないんだから…♡」

代「また、いっぱいレイプしてあげる…♡

ボクがかわいいアへ顔晒すまで…♡

ぐっちょぐちょに、犯してあげるからねえ…♡」

重「ほうら…っ♡

ぎゅうううう…♡

ボクのこと、またいっぱい、抱きしめてあげるう…♡

おちんちんも入れてえ…♡

らぶらぶ抱き着き対面座位で、おちんちんレイプだよお…♡

ほうらあ…♡ おちんちん、

ずぼずぼずぼ…♡」

代「あはあ♡

大きいお姉さんに抱き着かれて、

身動き取れなくなっちゃったねえ♡

ボクはまだ小さいからあ、仕方ないよねえ♡

弱いもんねえ♡ ザコオスだもんねえ♡

かわいいそうだねえ♡」

重「なら、せめておちんちんだけは大きくなれるようにい…♡

ほうら…♡ 母乳いっぱい、ぐくぐくしようねえ…♡

いっぱい飲まないと、大きくなれないよお…♡」

代「お姉さんたちのおっぱい、たくさん飲んでくれないとお…♡

このままどこかに、連れ去っちゃうからねえ…♡

このお家からバイバイしたくなかったらあ、

必死に母乳、飲むんだよお…♡

ほうらあ…♡」

重「あはあ…♡

飲んでる、飲んでる…♡

かわいいお顔で、ちゅうちゅうちゅうちゅう…♡

ほら、お顔、こっち…♡

母乳でどろどろのお口とお顔、きれいにしておげる…♡

っはあ…♡

んふふ…♡」

代「でもお、きれいにしてもらったお顔も、

すぐにい…♡

また、べっとべとになっちゃうねえ…♡

ボクったらあ、母乳いっぱい、

慌てて飲むんだもん♡

かわいいんだからあ…♡

んふふふふ…♡」

重「お姉さんたちに犯されながら飲む母乳、

美味しい？

美味しいよねえ♡ そんなに急いで飲むんだもんねえ♡

美味しいに決まってるう…♡

授乳逆レイプで、赤ちゃん返り…♡

しちゃっていいよお…♡

いっぱいかわいがってあげるからあ…♡

んふふ…♡

いいこゝ、いいこお…♡」

代「ほうら…♡

金玉うずうずしちゃってるう…♡

おちんちんもびくびくうって…♡

一方的に犯されてるのに…♡

泣きそうになっちゃうぐらい、

お姉さんたちのことが怖いのに…♡

またザーメン、昇ってきてるねえ…♡」

重「だったら、出あせ…♡

おちんちん出せ♡ おちんちんイケ…♡

ボクの小さいザコちんちんから出る、

よわよわ精液い…♡

お姉さんのおまんこに、ぶちまけろお…♡

中出ししろお…♡

出せ、イケ、出せ、出せ…♡

イケ、イケ、イケえ…♡」

代「おっぱいちゅうちゅう飲みながら、

おちんちん漏らせ…♡

敗北お射精…♡ おちんちんお漏らし…♡

イケ、イケ、イケイケイケイケ、射精しろお…♡」

重「おちんちん、びゅっびゅっ…♡」

代「おちんちん、びゅっびゅっ…♡」

重「あっはあ…♡ 出てる、出てるう…♡

お姉さんたちに犯されて、

真っ白おしっこお漏らしでっぴゅっ…♡

またおちんちん、負けちゃったあ…♡」

代「そもそも勝ったことなんて一度もないけどねえ…♡

ボクはずっと、お姉さんたちの、

おもちゃだったもんねえ…♡

んふふふ…♡

はあい…♡ もう一回だよお…♡

わかってたよねえ…♡

ボク、頭いいもんねえ…♡

ほらほらあ…♡ 行くよお…♡

おまんこキツキツ締め上げてえ…♡

おちんちん搾りい…♡

んふふふ…♡」

重「ほうら…♡ おっぱいどうぞお…♡

いっぱい飲んでねえ…♡

飲まないとお…♡

お出かけしてるお母さんが、

どうにかなっちゃうかもしれないよお…♡

お母さんとお別れするの、

イヤでしょお…？

だったら、ほうら、ごくごくしてえ…♡」

代「好きなだけえ…♡

飲みたい分だけえ…♡

飲みたくなかったってえ…♡

おっぱいちゅっちゅ、するんだよお…♡」

重「んふふふふ…♡

いいこ、いいこお…♡

お姉さんたちの言うこと、しっかり聞けて、

えらいねえ…♡

そうしてれば、怖くないからねえ…♡

大人しく命令聞いて、逆レイプされてれば…♡

ずっと楽しいままだからねえ…♡」

代「ほうら…♡

お顔、こっちい…♡

っはぁ…♡

どろどろの母乳舐め取ってえ…♡

代わりに、お姉さんの涎でべっとべとにしてあげる…♡」

重「母乳でも、涎でも…♡

おちんちんギンギンになるからねえ…♡

何度出しても萎えないおちんちん…♡

ずうっとお姉さんたちに犯してもらえるからねえ…♡

よかったねえ…♡」

代「これさえあれば、お姉さんたちに、

いつまでも犯してもらえるからねえ…♡

大人になっても…♡

おじいちゃんになっても…♡

あはあ…♡」

重「ボクが死ぬまで、ずうっといっしょだよ…♡

お姉さんたちにいつまでもお…♡

逆レイプ、されちゃおうねえ…♡」

ほうら…♡

出ちゃう出ちゃう…♡

おちんちんまた負けちゃう…♡

出したくないのに、精液搾られる…♡

おちんちんイクイクしちゃあう…♡

おっぱい飲みながら、また、どっぴゅん…♡」

重「出せ、出せ…♡

ザコザコザーメンどっぷり出せ…♡

おっぱいミルクでお腹いっぱいにしてえ…♡

お姉さんたちのお腹、いっぱいにするようにい…♡

おちんちん汁、漏らしまくれ…♡」

代「イケ、イケ、イケ、イケ…♡

おまんこ締めてあげるからあ…♡

金玉からおちんちん汁、

搾り出せえ…♡

ほうら、ほうらあ…♡

（ディープキス・激しく 5秒）

っはあ…♡

（顔舐め 5秒）

イケイケ、イッケえ…♡」

重「おちんちんザーメン、噴き出せえ…♡」

代「おちんちんザーメン、噴き出せえ…♡」

この村にいる、怪異…化け物の話…♡」

代「小さい男の子をさらって食べちゃう、

大きなお化けがいるって話…♡

知ってるでしょう…？

それが、お姉さんたちのことなのよ…♡

あは…♡」

重「やん♡ 逃げようとしたあ…♡

だあめ…♡ 逃がさない…♡

大丈夫…♡

その言い伝え、間違いだから…♡

男の子、さらったりなんかしないし…♡

食べるって言うのも、おちんちんのことだもん…♡

それとも、わざと間違えてるのかしら…♡

子供に、おちんちんセックスのこと、

話せないもんねえ…♡」

代「だから安心してね♡

お姉さんたちは、ボクのこと、食べたりなんかしないから…♡

その代わり…♡」

重「これから一生…♡　たくさん、たくさん…♡

お姉さんたちが、ボクに飽きちゃうまで…♡」

代「ボクがどれだけ大きくなっても…♡

例え、この村から離れたって…♡

追いかけてえ…♡」

重「犯し尽くしてあげるからねえ…♡

ふふ…っ♡　ふふふふ…っ♡

代「犯し尽くしてあげるからねえ…♡

ふふ…っ♡　ふふふふ…っ♡

重「ポポポポポポポ…っ♡」

代「ポポポポポポポ…っ♡」

● 第16章

重「はあい♡ ポ・ク…♡

八重お姉さんのおっぱい、どうぞお…♡

たくさん飲んでいいからねえ…♡

んっうん…♡

ふふふ…♡

そうそう…♡ 美味しそうに、いっぱい、いっぱい…♡

おっぱいちゅうちゅうしちゃってねえ…♡

そうすれば、ほうら…♡

んっはあ…♡

ボクのための、おっぱいミルク…♡

母乳がいっぱい、溢れてくるからねえ…♡

お姉さんのおっぱい、ごくごく飲んじゃおうねえ…♡

そうすれば、ほうら…♡

ボクのおちんちん、こんなにガチガチになっちゃうから…♡

おちんちんいっぱい、かっこよくしようね…♡

大人のおちんちにしちゃおうね…♡

大きくなったおちんちんは、お姉さんが、いっっぱい…♡

しこしこしてあげるからねえ…♡

ほうら…♡

しこしこしこ…♡

おちんちんしこしこ、しこしこお…♡

おちんちん気持ちいい？

お姉さんのおっぱいでえ、どんどん硬くなってるおちんちん…♡

いっぱいしこしこ撫で撫でされるの、気持ちいい？

ふふふふ…♡

どんどんおっぱい飲んじゃおうねえ…♡

お姉さんのお手々の中で、おちんちんむくむく…♡

熱々ザーメン、たっぷり出しちゃおうねえ…♡

ほうら…♡

また、お姉さんの母乳…♡

いっぱい飲んで…♡

たくさん浴びてえ…♡

おちんちん、バッキバキい…♡

んふふふ…♡

いいこ♡ いいこ…♡

おちんちんいいこお…♡

大きくて硬あいおちんちん…♡

お姉さん、だあい好き…♡

よしよし、よしよし…♡

気持ちいいねえ…♡

おちんちん熱々でえ…♡

タマタマまでほかほかになっちゃってえ…♡

精液、昇ってきちゃいましたかあ…？

んふふ…♡

いいよお…♡ いいよお…♡

お姉さんのおっぱい飲みながら、

いっぱいぴゅっぴゅしようねえ…♡

お姉さんのおっぱい飲みながら、おちんちん、びゅーう…♡

はっぁ…♡

お姉さんのおっぱい、たくさん浴びてえ…♡

気持ちよくお漏らししようねえ…♡

はぁい、はぁい…♡

しこしこしこしこしこお…♡

出ちゃうねえ…♡

おちんちんイッちゃうねえ…♡

おちんちんイクイク♡

おちんちん出る出るう…♡

びゅっびゅして♡

どっぴゅんしてえ…♡

はぁい、はぁい、はぁい、はぁい…♡

おちんちん、びゅっびゅう…♡

びゅー…♡　びゅー…♡

びゅびゅびゅびゅう…♡

はっぁん…♡

おちんちんお射精しながら、おっぱいちゅっうっうって…♡

すごい強く、おっぱい吸ってくれてえ…♡

んふふ…♡

お姉さんも、興奮してきちゃったわあ…♡

ねえ、ボク…♡

今度はお姉さんもおまんこも…♡

気持ちよくしてくれる…？

ふふふ…♡

ほうら…♡

ボクのおちんちん、まだこんなに硬いままだからあ…♡

ボクの精液の匂いで発情しちゃった、

いやらしい、お姉さんのおまんこ…♡

ほうら…♡

簡単に、入っちゃう…♡

はっあああ…♡

ふふ、ふふふふふ…♡

んっ、あっ、あう、んっ、んうっ、ひあ♡

あっああん…♡

おちんちん、熱うい…♡

お姉さんのおまんこ…♡

ボクのおちんちんで、感じちゃう…♡

ああ、ん、んふ、んあ、んう、あ、っああ…♡

あ、ああっ、ん、んふう、んっ、んあ、あん、んう…っ♡

んうっあ、はああん…♡

んふふ…♡

ボクのおちんちん…♡

こんなに立派な、大人のおちんちん…♡

お姉さんのおまんこ相手に、

全然負けてない…♡

すごいわ、ボク…♡

ほうら…♡

お姉さんと、お手々、繋ぎましょう…♡

あったかお手々、手のひら合わせて、

恋人繋ぎでえ…♡

らぶらぶ甘々、おまんこセックスう…♡

ん、んあ、あん、ああ、あん、ああ、んっ♡

はっあん…♡

おっぱい出ちゃう…♡

おっぱい漏れちゃう…♡

飲んで♡ お姉さんのおっぱい、

また、ちゅうちゅうってえ…♡

んっうん…♡

乳首ぱっくん啜えられて♡

ちゅっちゅ、ちゅっちゅ…♡

母乳いっぱい溢れちゃう…♡

ボクのためのおっぱいミルク…♡

たくさん出ちゃう…♡

んふ、んっふ、ああ、ああ、ああん、んあん…っ♡

んあっ、あんっ、あっ、んあ、ああんっ♡

はっあああ…♡

好きっ♡ 好きよっ♡

ボクのこと、だあい好き…♡

お姉さんのおまんこ、ボクのおちんちん、好き好きって…♡

お手々に負けないぐらい強く…♡

おちんちんぎゅううって、抱きしめてえ…♡

あんっ♡ やあんっ♡

あんっ♡ あんっ、あっああん…♡

ボクのおちんちんで気持ちよくされてえ…♡

ボクのおちんちん、お返しに、いっぱい気持ちよく、

してあげちゃってるう…♡

らぶらぶセックス、気持ちいいねえ…♡

んふふ、んふふ…♡

母乳も止まらない…♡

ボクのが好きすぎて、どんどん出るう…♡

はっあ♡ んっうん…♡

あはあ…♡

おちんちん、イッちやいそう？

いいわよ、お姉さんの中に…♡

おちんちん、中出し…♡

お姉さんのおまんこ、一番奥で…♡

おちんちん、ぱっくんしててあげるからあ…♡

おちんちんの先っぽ…♡

お姉さんの子宮で、捕まえちゃうからあ…♡

ここにいっぱい、びゅー…♡って出してえ…♡

ほら、ほぅら…♡

先っぽちゅうちゅう…♡

しててあげるう…♡

お手々もつとぎゅうってするからあ…♡

んふふ…♡

出して、出して、出して、出してえ…♡

おちんちんどうぞ♡

おちんちんどうぞお…♡

ほぅら…♡

出せ、出せ、おちんちんイケ♡

おちんちんイケえ…♡

お姉さんの子宮にい…♡

どっぴゅん種付けえ…♡

出せ出せ出せ出せえ…♡

んっうううん…♡

あはあっ♡ 出てるう…♡

ボクのほかはおちんちん汁う…♡

どっくどくう…♡

はっああん…♡

おっぱい、出るう…♡

ボクのザーメン、奥でごくごく飲み干して…♡

おまんこ喜んで、おっぱい、溢れる…♡

はっああん…♡

はあ、はあ、はああ…♡ んふふふ…♡

どうぞお…♡ どうぞお…♡

おちんちんイクイクしながらあ、いっぱい飲んで…♡

お姉さんのおっぱいミルク…♡

まだまだ出るからねえ…♡

おちんちんすっきりしてからでも、

美味しいの、変わらないからねえ…♡

んふふふ…♡

いいこ、いいこ…♡

かわいいボクう…♡

気持ちよかったねえ…♡

また、いっしょに気持ちいいこと、しちゃおうね…♡

ん
ふ
ふ
ふ
ふ
ふ
…
♡
└

● 第17章

代「はあい、ボクう…♡

今日は八代お姉さんにいっぱい甘えて、

おちんちん抜き抜きしようねえ…♡

ほうら…♡

こっちに来て…♡

お姉さんのおっぱい、ちゅうちゅう吸ってえ…♡

あんっ♡ あはあ…♡

うん♡ うん♡ おっぱいぱっくん、ちゅぱちゅぱちゅうちゅう…♡

いっぱい飲んでねえ…♡

ボクのためにい…♡

っはあん…♡

母乳たっぷり、出してあげるからねえ…♡

んふふ…♡

いいこ、いいこお…♡

よしよしよしおし…♡

はあい…♡

おちんちんも、たくさんしこしこしてあげるからねえ…♡

いいこ♡ いいこ♡ おちんちんいいこお…♡

おっぱいたくさんごくごく飲んでねえ…♡

お姉さんの母乳でえ…♡

おちんちんあつつあつに温めてねえ…♡

んふふふふ…♡

ほうら、ほうら、ほらほら、ほうら…♡

しこしこしこしこし♡ しこしこ、しこしこお…♡

んっうん…♡

たくさんちゅうちゅう出来てえらいねえ…♡

母乳いっぱい吸い出してえ…♡

ぐぐぐぐぐ、ぐっくん…♡

えっちな母乳でおちんちん、たくさん勃起させようねえ…♡

お姉さんの母乳はあ、ボクのためにあるんだからねえ…♡

ボクだけが飲めるおっぱいだよお…♡

ほうら、もっと、もっとお…♡

たっぷりちゅうちゅう…♡

はっあん…♡

ふふふ、ふふふ…♡

おちんちん、お手々の中でこんなにあっつあっ…♡

タマタマもばんっぱんに膨らんで…♡

精子いっぱい出てきちゃいそうですねえ…♡

いいですよお…♡

お姉さんのおっぱい吸いながらあ、

おちんちんびゅーびゅー…♡

お姉さんの母乳に負けないぐらい、

たっぷりのおちんちんザーメン…♡

どっぴゅんびゅるびゅるしちやおうねえ…♡

ほうら、しこしこしこしこ…♡

おちんちんいいこ、おちんちんいいこお…♡

出ちゃいそうだねえ…♡

おちんちんびくびく止まらないねえ…♡

はあい、どうぞお…♡

お姉さんの母乳、ごくごく飲んで、おちんちんびゅっぴゅ…♡

幸せいっぱい、おっぱいミルク…♡

おいしくごくごく飲み干しながら、

おちんちんどっぴゅん…♡

しちゃってねえ…♡

はあい、はあい、はあい、はあい…♡

おちんちんびゅっぴゅー…♡

おちんちん、どぴゅどぴゅ…♡

びゅっびゅっびゅ…♡

出てるよお…♡ たあっぷり出てるう…♡

ほらほら、もっと飲んで♡

おっぱいちゅうちゅう…♡

おちんちんイクイクしながら、おっぱいぐぐぐ…♡

おっぱい美味しいねえ…♡

おちんちん気持ちいいねえ…♡

ふふふふ…♡

はあい…♡

おちんちんぴゅっぴゅ、気持ちよかったねえ…♡

ほかほかおちんちん汁、びゅるるる、びゅるるって…♡

あは…♡

じゃあ、今度はこのおちんちん精液…♡

お姉さんのおまんこの中に、出してもらえるかな？

んふふ…♡

ほうら…♡ ガチガチのままのおちんちん…♡

お姉さんのおまんこで、お迎えするからねえ…♡

お姉さんがいっっぱい、おまんこぱんぱん、してあげるからあ…♡

にゅるにゅるおまんこに、精液ぴゅっぴゅ…♡

しちゃおうねえ…♡

はあい…♡ おちんちん、入っちゃうよお…♡

んっうん…♡

あはあ…♡ ポクのおちんちん、あつつうい…♡

おまんこ気持ちいいよお…♡

二人でいっしょに、もっといっっぱい、気持ちよくなろうねえ…♡

ああ、んっ、うん、あんっ、あ、あっ、あんっ♡

やんっ、ああ、うあんっ♡

あっああん…♡

おまんこぱんぱん♡ おまんこどちゅどちゅっ…♡

おちんちん、気持ちいいねえ…♡

甘々おまんこで、おちんちん、にゆるん、にゆるん…♡

たくさん気持ちよくなっちゃうねえ…♡

ほうら…♡

おっぱいもどうぞお…♡

おちんちん気持ちよくしてもらいながらあ、おっぱいちゅぱちゅぱあ…

♡

んっあん♡

あはあ…♡

ボクのおちんちん気持ちよくって、いっぱい出ちゃう…♡

ボクのためのおっぱいミルク、たくさん漏れちゃうよお…♡

ほうら、飲んで、飲んでえ…♡

お姉さんのおっぱいごくごく飲んでえ…♡

おちんちんもっと、硬くしてえ…♡

あん、うん、あん、あんっ、ん、んあ、はあ、あふ、ふあっ…♡

ああ、ん、んふ、んあ、んう、あ、っああ…♡

あっはあ…♡

いいい、いいい、いいい、いいいお…♡

おちんちんよしよし…♡

あんっ、やん♡ やっあん♡ あっはあ…♡

おちんちん、おまんこの中でびくびくう…♡

出ちやいそうだねえ…♡

お姉ちゃんのおまんこで、おちんちんイクイクう…♡

いいよお…♡ 出していいよお…♡

今日もいっぱい、お姉さんのおまんこに、中出ししようねえ…♡

お姉さんも、母乳いっぱい、飲ませてあげるからね…♡

二人いっしょに、いっぱい感じちゃおうねえ…♡

はあい、はあい♡

はい、はい、はあい…♡

どうぞ、いいよお…♡

おちんちん中出し…♡ おまんこごっぴゅん…♡

出して、出して、出してえ…♡

んっうん…♡

お姉さんのおまんこに…♡

熱々ザーメン、中出しお漏らし…♡

おちんちん気持ちよく…♡

種付けどっぴゅん…♡

どうぞ、どうぞ、どうぞ、どうぞお…♡

はあい…♡

んっぁあん…♡

びゅっ、びゅっ、びゅっ、びゅううう…♡

おちんちん、どくどくどっくう…♡

はぁぁ…♡

熱いの出てる…♡ たっぷり中出し、気持ちいいねえ…♡

よしよし、よしよし…♡

お射精上手…♡ 中出しお上手う…♡

今日もいっぱいがんばったねえ…♡

またいつでも、お姉さんがおちんちん、

すっきりさせてあげちゃうからね…♡

ずっといっしょにしようねえ…♡

んふふふふ…♡「♡」

● 第18章

◆ ①

重「おはよう、ボ・ク…♡

ほら、早く起きて♡

八重お姉さんがお迎えに来てあげたわよ♡

今日はお姉さんといっしょに遊ぶ約束でしょ？

お姉さんも、この日のために早起きしてきたんだからあ…♡

お布団なんか、蹴っ飛ばしていいの♡

お布団なんかより、

お姉さんに抱きしめてもらった方が、

あったかいでしょう？

ほら、こっち来て…♡

お姉さんが、いっぱいぎゅーっしてあげるからあ…♡

代「ボクう…？ まあだ眠っちゃってるのかなあ…♡

いけないなあ…♡

八代お姉さんとの約束の時間、もう過ぎてるんだよお…？

それとも、お姉さんに起こして欲しくて、

わざとお寝坊さんしちゃったのかな？

んふふ…♡

だったら、ほら♡

こっちに来て♡ お姉さんといっしょに、

お出かけしよ？

今日もたくさん、二人で楽しいこと…♡

いっぱい、いっぱい、しちやおうね…♡

↓
↓
↓
↓
↓
⋮
♡



重「起きて♡ ボク♡

もうおっきする時間よお♡

ふふふふふ…♡」

代「お姉さんたちが起こしに来てあげたよ…♡

早くお布団から出てきてね♡

今日も♡人で、仲良く遊びましょ♡」

重「今日はこういう風に遊ぼっか♡

ボクのお部屋で？ それともお外で？

みんなでお風呂も楽しそうだねえ…♡」

代「今日もいっぱいドキドキしようね…♡♡

さあ、起きて、ボク♡

みんなで楽しく、お遊びしようね…♡

ふふふふふ…♡「



重「ほうら、ボク…♡

起きて…♡

起きてこっちに来て…♡

早く…♡
「

代「おいで、おいでえ…♡

こっちにとってもおいしいミルク…♡

いっぱいあるからねえ…♡

ほうら…♡
「

重「あったかミルク、たくさん出ちゃうから、ね…？

だからほら、早く起きて…♡

お姉さんたちの母乳…♡

いっぱい飲みましょ…？」

代「おいしい母乳をごくごく飲んで…♡

今日も元気いっぱい♡

みんなでいっしょに、気持ちいいこと…♡

いっぱいしようねえ…♡」

◆
⑤

重「はあい、ボク…♡

今日もいっぱい遊んだわねえ…♡

遊び疲れて、眠たくなっちゃったね…♡

さあ、もうおねむの時間よ♡

お布団に入って、ぐーぐー眠っちゃおうね♡

お姉さんもいっしょに眠ってあげるから…♡

お布団の代わりに、あったかく包んであげるから…♡

明日まで、ぐっすり…♡

お休みしようねえ…♡

そうすれば、また明日も…♡

お姉さんと元気にいっぱい…♡

遊べちゃうからね…♡ ふふふ…♡
「

代「はいはい、ボ・ク…♡

お布団、いっしょに入りましょうね…♡

今日はもう眠る時間…♡

楽しいお遊びも、何もかも…♡

おしまい時間…♡

でも大丈夫♡ ぐっすり眠って、朝が来れば…♡

また楽しくいっぱい、遊べるからね…♡

お姉さんと、いっぱい、いいこと…♡

明日いっしょにするために、今日は、ほら…♡

おやすみなさい…♡」

重「はあい♡ ボクう…♡

お布団は、ここだよお…♡

お姉さんたちが待ってるからあ…♡

こっちに来て♡ ね…♡」

代「お姉さんたちが、お布団代わりにボクのこと♡

あつためてあげるからね…♡

お姉さんたちに包まれながら、

朝まで眠ろうね…♡」

重「お腹もぼんぼんしてあげる…♡

頭たくさん、よしよししてあげる…♡」

代「優しく寝かしつけてあげるから…♡

いっしょに寝ちやおうねえ…♡ ふふふ…♡「

重「はあい、ボク…♡

おやすみミルク、いっぱい飲んでえ…♡

ふふふ…♡ 美味しい？」

代「こっちにも、おいしいおやすみミルク♡

あるからねえ…♡

いっぱい飲んでえ…♡

ふふふ…♡」

重「たくさん飲んで、お腹いっぱいにして…♡

今日もいい夢見ちゃおうね…♡

幸せな夢を見て…♡

明日の朝は、とってもいい気分…♡」

代「素敵な夢が見られるように…♡

おやすみミルク♡ いっぱい出してあげるからねえ…♡

はあい♡ どうぞお…♡

ふふふふふ…♡「♡」

重「さあ、ボク♡

お出かけの時間よ♡

準備はできた？ 忘れ物とかなあ？

確認できたら大丈夫♡

今日も楽しく遊んできてね♡

帰ってきたら、お姉さんともいっしょに遊びましょうね♡

気持ちのいいマッサージ、いっぱいしてあげる…♡

溜まった疲れもすっきりさせてあげるからな…♡

今日もたくさん、元気よく…♡

力いっぱい、過ごそうね♡

いってらっしゃあい♡ ふふふふ…♡「♡」

代「もうこんな時間なんだあ…♡

ボクといっしょに過ごしてると、

あつという間に時間が過ぎちゃうね…♡

でも、大丈夫…♡

お姉さんは、いつでもボクのこと、待ってるからね…♡

帰ってきたら、またいっしょに遊びましょ？

いっぱい、いっぱい、楽しいこと、気持ちいいこと…♡

ボクのこと、いっぱい抱きしめてあげるからね…♡

気をつけて、いってらっしゃい♡

またね、ボ・ク♡

ふふふふふ…♡」

重「はい、お洋服もこれで大丈夫♡

ちゃんとお出かけできる格好よ♡

さあ、遅れないうちに、早く行きましょう?」

代「忘れ物はない?

問題ないなら、気をつけて、お出かけてね♡」

重「ボクが帰ってくるの、二人で待ってるからね…♡

帰ってきたら、また楽しく遊ぼうね…♡

ボクが喜びそうなこと、いっぱい考えておくからね♡」

代「それじゃあ、はあい…♡

いってらっしゃいの、ぎゅっ♡…♡

ふふふふふ…♡

気をつけてね♡
ボク…♡
」

重「よしよし、よしよし…♡

もうお出かけの時間だねえ…♡

だから、ミルクごくごくはあ、これで最後お…♡

ふふふふ…♡

代「もうお腹いっぱいだもんね…♡

これだけ母乳をたっぷり飲めば、

今日も一日中、元気いっぱい…♡

どんなことでも平気だよねえ…♡

重「帰ってきたら、またいっぱい、飲ませてあげるからね…♡

また、お腹いっぱいになるまで…♡

いくらでも…♡

代「お帰りミルク、楽しみだねえ…♡

それじゃあ、ボク…♡

お腹もいっぱい、元気もいっぱい…♡

今日も楽しく…♡」

重「いってらっしゃあい…♡」

代「いってらっしゃあい…♡」